



Outbound Security for Microsoft 365

スタートアップガイド

- * Microsoft、Microsoft 365、Windows、Office、Office 365、Outlook、Exchange Online、Edge、Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- * Apple、Mac、macOS、iOS、iPadOS、iPhone、iPad、Safari は米国 Apple Inc.の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- * Google、Chrome は米国 Google LLC.の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- * Mozilla、Firefox は米国 Mozilla Foundation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- * 記載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。本データ内の文章・画像・図版の著作権についてはそれぞれの著者に帰属します。

© Canon Marketing Japan Inc. 2025

本ドキュメントの一部あるいは全部について、キヤノンマーケティングジャパン株式会社の事前の承認なく、複製、転載することを禁止します。

2025-May-2

目次

1.	はじめに	3
1.1	ご利用までの流れ.....	4
1.2	本マニュアルの表記	5
2.	導入にあたり	6
2.1	サービスの構成.....	6
2.1.1	Outlook アドイン	7
2.1.2	クラウド上のサーバー	7
2.2	本サービスの Outlook アドインの機能選択	8
2.3	動作環境	9
3.	Outlook アドインの事前同意	11
3.1	アドインの事前同意	12
3.2	事前同意後の確認	18
3.3	アドインの事前同意で操作に困ったら	25
3.3.1	アドインの事前同意に失敗する	25
3.3.2	事前同意を行う前にユーザーがアドインを使用した	26
3.3.3	管理者権限がないアカウントで事前同意を実施した	27
4.	Outlook アドインの追加	29
4.1	管理者による Outlook アドインの展開	29
4.2	組織内のユーザーごとに Outlook アドインを追加	36
5.	こんなときは	43
5.1	Outlook アドインを削除したい	43
5.1.1	Outlook アドインを削除する（管理者）	43
5.1.2	Outlook アドインを削除する（組織内のユーザー）	45
5.2	アドインが動かない	46
5.2.1	表示内容を確認する	46
5.2.2	Windows 版のバージョンを確認する	50
5.2.3	macOS 版のバージョンを確認する	52
5.3	アドインのマニフェストファイルを登録したのに表示されない	53
5.4	別機能のアドインの追加ができない	53
5.5	アドインの機能を変更したい	54
5.6	Outlook for Windows で「アドインを入手」アイコンが表示されない	55
5.7	Outlook for Windows の Exchange キャッシュモードのオフライン作業が有効なときの挙動を知りたい ...	57
5.8	Outlook for Windows でグループポリシー[Web アドインを読み込むことができない場合に送信をブロックする]が有効なときの挙動を知りたい	57
5.9	Outlook on the web の OnSendAddinsEnabled が True のときの挙動を知りたい	58
5.10	Outlook on the web のモバイル版の挙動を知りたい	58

5.11	Outlook Web App Light を無効にしたい.....	58
5.12	Outlook アドインを WebView2 ベースで動作させる.....	59
5.13	アドインのアイコンの配置がわかりにくい.....	60
6.	初期設定完了	62

1. はじめに

この度は、Outbound Security for Microsoft 365（以下、本サービス）をご購入くださり、誠にありがとうございます。本サービスは、Outlookアドインの拡張機能を利用することでサービスを提供しています。

本資料は、本サービスのご利用にあたりOutlookアドインをOutlookアプリに導入する方法をご紹介します。

1.1 ご利用までの流れ

本サービスの運用開始までの全体的な流れは次頁のとおりです。

本資料は**青枠部分**の手順について記載しております。

	関連資料	該当の章・項目
納品のご案内メールの受け取り	納品のご案内メール	-
↓		
Outlook アドイン事前同意	スタートアップガイド (本資料) 納品のご案内メール	3. Outlook アドインの事前同意 【事前同意用 URL①】 【事前同意用 URL②】
↓		
Outlook アドイン追加	スタートアップガイド (本資料) 納品のご案内メール	4. Outlook アドインの追加 【マニフェストファイルの URL】
↓		
初期設定完了	スタートアップガイド (本資料)	6. 初期設定完了
↓		
利用開始	ユーザー運用ガイド	-

1.2 本マニュアルの表記

本マニュアルで使用している画面イメージは、実際の画面と異なる場合があります。画面イメージで使用している名称は説明のためのサンプルです。全て架空のものであり、実在するものとは一切関係ありません。

用語について

用語	説明
Outlook for Windows	Windows 版の Outlook を表します。 ※2025 年 5 月現在、従来の Outlook for Windows と新しい Outlook for Windows（Microsoft Store アプリ版）があります。特に指定のない限り、従来の Outlook for Windows を表します。 ※各手順において、Outlook for Windows の表示例は従来の Outlook for Windows を使用しています。新しい Outlook for Windows をご利用の場合、表示が異なる可能性があります。
Outlook for Mac	macOS 版の Outlook を表します。 ※2025 年 5 月現在、従来の Outlook for Mac と新しい Outlook for Mac があります。特に指定のない限り、新しい Outlook for Mac を表します。
Outlook on the web	Web ブラウザー版の Outlook を表します。
Outlook アプリ	Windows 版の Outlook と macOS 版の Outlook と Web ブラウザー版の Outlook を表します。
本サービスのサーバー	Outbound Security for Microsoft 365 を構成する以下のサーバーを表します。 ・ Outlook アドインの通信先のサーバー ・ ダウンロードリンクを受信したユーザーがファイルを入手するために利用するサーバー

マークについて

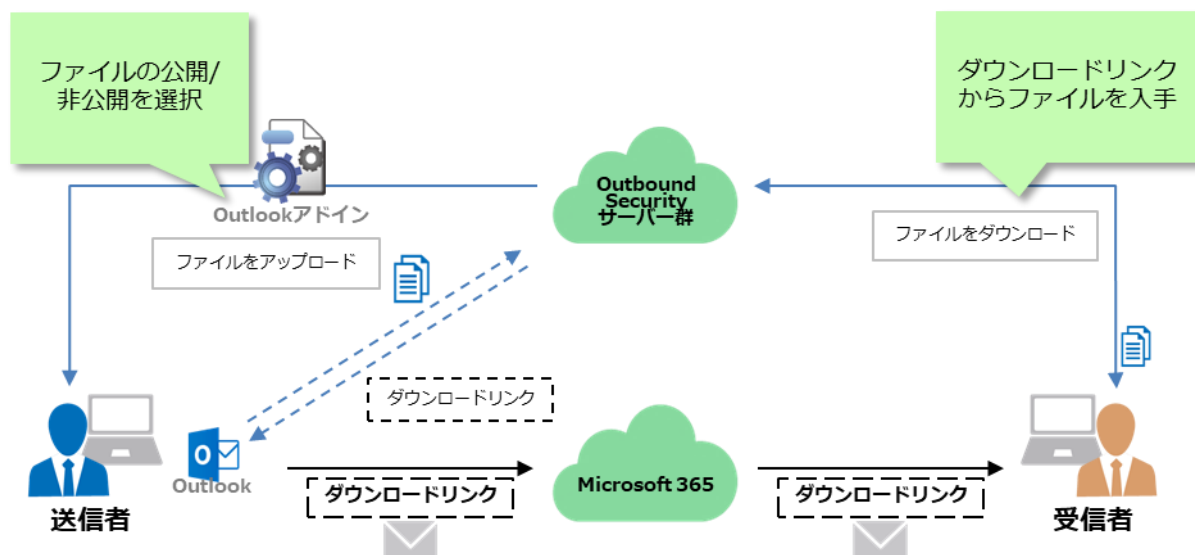
マーク	説明
	注意： 注意事項や制限事項を説明しています。
	情報： 操作や運用に関連した情報を説明しています。参考にお読みください。

2. 導入にあたり

本サービスは、「送信前確認機能」と「添付ファイルダウンロードリンク化機能」を備える、メール送信時のセキュリティ向上を目的としたサービスです。本章では、本サービスの導入にあたって機能概要および動作環境をご紹介します。

2.1 サービスの構成

本サービスは、クラウド上の各種サーバー、およびそれらと通信を行うOutlookアドインから構成されます。Microsoft 365（旧称：Office 365）サービスに本サービスのOutlookアドインを追加することで、Outlookアプリの機能を拡張し、「送信前確認」および「添付ファイルダウンロードリンク化」が利用できるようになります。



2.1.1 Outlook アドイン

Outlookアドインとは、Webテクノロジーを基にしたOutlookアプリ用のOfficeアドインのことです。従来のCOM（Component Object Model）アドインやVSTO（Visual Studio Tools for Office）アドインとは異なり、WindowsやWebブラウザなどのクロスプラットフォームで動作します。

本サービスの Outlook アドインが提供する拡張機能

機能	説明
送信前確認	Outlook アプリからメールの送信操作を行うと、メールに入力した内容を検査して送信確認画面を表示します。
添付ファイルダウンロードリンク化	Outlook アプリから添付ファイル付きのメールの送信操作を行うと、添付ファイルが自動的にクラウド上のサーバーに転送され、メール本文に添付ファイルのダウンロード先のリンクが付加されます。

Outlookアプリで本サービスのOutlookアドインを利用する方法については、「ユーザー運用ガイド」をご参照ください。

2.1.2 クラウド上のサーバー

本サービスは、Outlookアドインの通信先、およびダウンロードリンクを受信したユーザーがファイルを入手するために利用するサーバーからなります。ダウンロードリンクの利用方法については、「ユーザー運用ガイド」をご参照ください。

2.2 本サービスの Outlook アドインの機能選択

本サービスのOutlookアドインは、Microsoft 365サービスにマニフェストを登録する際に、使いたい機能を選んで導入することができます。選択可能な機能は以下の表の通りです。

No	動作モード	宛先へのファイルの公開状態	「リンク化しないで送信」の常時表示
①	通常	デフォルト非公開	表示しない
②	通常	デフォルト非公開	表示する
③	通常	デフォルト公開	表示しない
④	通常	デフォルト公開	表示する
⑤	リンク化のみ	デフォルト非公開	表示しない
⑥	リンク化のみ	デフォルト非公開	表示する
⑦	リンク化のみ	デフォルト公開	表示しない
⑧	リンク化のみ	デフォルト公開	表示する
⑨	送信確認のみ	機能なし	機能なし

動作モードは、通常／リンク化のみ／送信確認のみの3つの中から選択できます。

1. 通常：本サービスの Outlook アドインが提供するすべての拡張機能が利用できます。
2. リンク化のみ：添付ファイルダウンロードリンク化機能のみが利用できます。埋め込み画像と共有リンクを除いたダウンロードリンク化対象のファイルが添付されていた場合に処理を選択できます。送信前確認機能での宛先チェックが不要な場合にご利用ください。
3. 送信確認のみ：送信前確認機能のみが利用できます。添付ファイルダウンロードリンク化機能が不要な場合にご利用ください。送信前確認機能だけの場合、メールに変更を加えることは無いため、他のサービスと組み合わせることも可能です。

宛先へのファイルの公開状態は、送信確認画面が表示されたときのファイルの公開状態のフラグを設定するものです。ユーザーは送信確認画面で宛先にファイルを公開した状態で送信するかどうかをこの設定に関わらず任意に変更可能です。ダウンロードリンク化してメール送信したときのファイルの公開状態を制御することはできませんのでご注意ください。

「リンク化しないで送信」の常時表示は、送信者のドメインと同一の場合に表示される「リンク化しないで送信」ボタンを、送信者のドメインと異なるドメインが含まれていた場合にも表示するかどうかを設定するものです。



マニフェストファイルを登録後、別のマニフェストファイルに入れ替える場合には、72 時間程度の時間がかかることがあります。

2.3 動作環境

本サービスのOutlookアドインはOutlookアプリの拡張機能として提供しているため、動作環境のサポート範囲はMicrosoftのライフサイクルポリシーに準拠します。本サービスのOutlookアドインの動作環境は以下の通りです。

Microsoft 365

サービス	
Exchange Online	Microsoft 365 サブスクリプションサービスの契約に Exchange Online が含まれている必要があります。 ※Outlook for Windows および Outlook for Mac の場合、アカウント設定で Microsoft Exchange アカウントと連携（Microsoft 365 サブスクリプションサービスに接続）する必要があります。IMAP/POP3 で接続している場合、Outlook アドインは動作しません。

Outlook アプリ

種類	環境
従来の Outlook for Windows Outlook (classic)	Windows 10、Windows 11 Microsoft 365 Apps ※Microsoft のライフサイクルポリシーに準拠したバージョン以外は動作保証外です。 ※Microsoft 365 Apps for enterprise（旧称：Office 365 ProPlus）と Microsoft 365 Apps for business（旧称：Office 365 Business）がありますが、Microsoft のドキュメント表記と同様に、ここでは Microsoft 365 Apps とします。
新しい Outlook for Windows Outlook (new)	Windows 10、Windows 11
Outlook for Mac	macOS 11 Big Sur、macOS 12 Monterey、macOS 13 Ventura Outlook for Mac ※Microsoft のライフサイクルポリシーに準拠したバージョン以外は動作保証外です。 ※従来の Outlook for Mac は動作保証外です。 ※iOS および iPadOS は動作対象外です。
Outlook on the web （旧称：OWA、 Outlook Web App）	Windows の場合 Microsoft Edge Mozilla Firefox Google Chrome macOS の場合 Safari

※上記以外の Web ブラウザーは動作保証外です。
※モバイル版の表示の場合、アドインは動作しません。



Office の使用には Microsoft が定める要件に準拠する必要があります。

詳細は別途 Microsoft のドキュメントをご参照ください。

[「Microsoft 365 と Office のリソース」](#)



Microsoft 365（旧称：Office 365）で提供される各種サービスの詳細は別途 Microsoft のドキュメントをご参照ください。

[「Microsoft 365 および Office 365 サービスの説明」](#)



Microsoft 365 Apps のサポートされているバージョンの詳細は別途 Microsoft のドキュメントをご参照ください。

[「Microsoft 365 Apps の更新履歴（日付別の一覧）」](#)



Windows 10 Long-Term Servicing (LTSC 版)は Microsoft 365 Apps のサポート対象外です。

詳細は別途 Microsoft のドキュメントをご参照ください。

[「Office 365 のシステム要件の変更」](#)



Microsoft 365 サービスへの接続サポートは Microsoft 365 Apps や Office LTSC などがあります。Windows 10 LTSC 版をお使いの場合は Office LTSC 版と組み合わせてご利用ください。Windows 10 Enterprise LTSC 2019 をご利用中で、本サービスの Outlook アドインを使用する場合は、Office LTSC 2021 と WebView2 ランタイムがインストールされている必要があります。詳細は別途 Microsoft のドキュメントをご参照ください。

[「Office のバージョンと Microsoft 365 サービスへの接続」](#)

3. Outlook アドインの事前同意

本サービスを利用するにあたり、管理者による本サービスのOutlookアドインの事前同意が必要となります。アドインの事前同意とは、管理者が本サービスのOutlookアドインが使用する各種アクセス許可を事前に付与する作業になります。アドインの事前同意を実施することで、ユーザーは本サービスの利用が可能になります。

事前同意の実施に当たり、お手元に以下のものが揃っていることが前提となります。事前にご確認いただきますようお願いいたします。

準備するものについて

準備するもの	説明
Microsoft 365 管理者アカウント	事前同意の実施には、Microsoft 365 管理者アカウントが必要になります。 以下、いずれかの権限を持つアカウントをご準備ください。 ・グローバル管理者 ・クラウドアプリケーション管理者 ・アプリケーション管理者
事前同意用 URL①	事前に配布された事前同意のための URL になります。納品のご案内のメールに記載されておりますのでご確認ください。
事前同意用 URL②	事前に配布された事前同意のための URL になります。納品のご案内のメールに記載されておりますのでご確認ください。
Web ブラウザー	事前同意用 URL を入力するために必要な Web ブラウザーになります。 以下、ご利用できる Web ブラウザーの例です。 ・ Microsoft Edge ・ Google Chrome ・ Mozilla Firefox

3.1 アドインの事前同意

「事前同意用URL①」と、「事前同意用URL②」を使用して、アドインの事前同意を実施する方法について説明します。

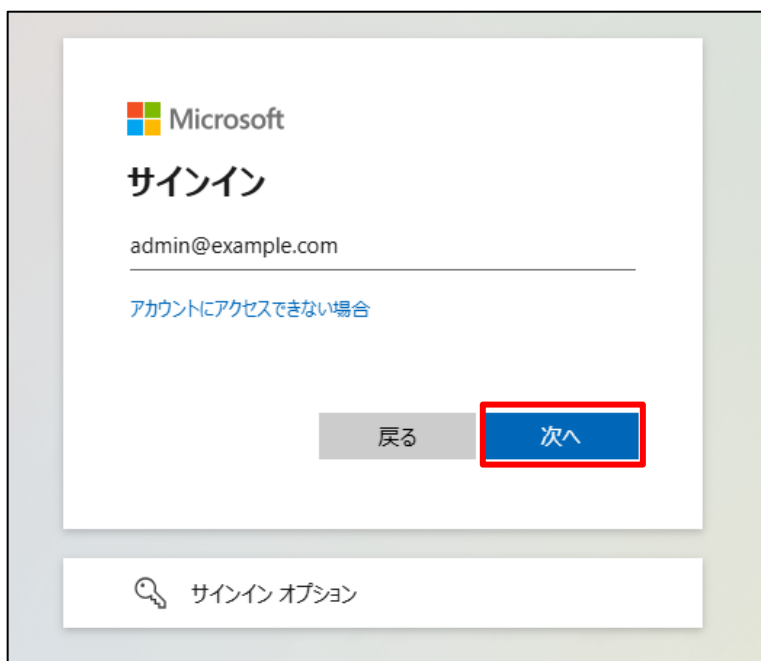


アドインの事前同意には必ず、「事前同意用 URL①」を使用した後に、「事前同意用 URL②」を使用してください。

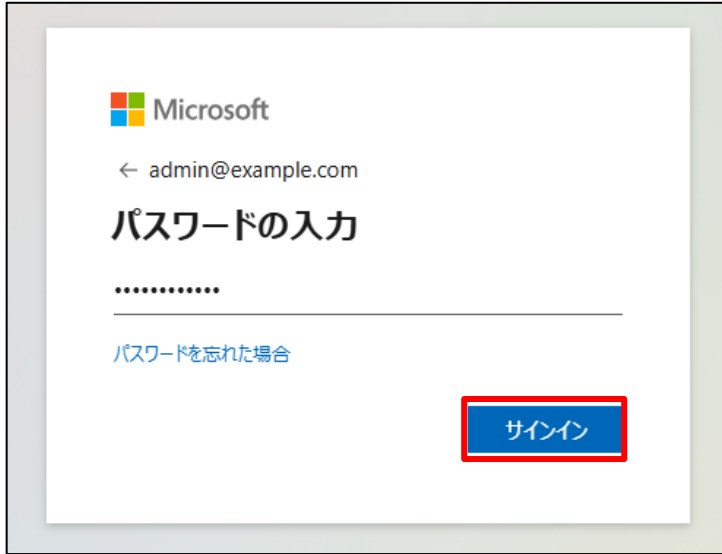
1. 「事前同意用 URL①」をコピーし、Web ブラウザーに入力します。



2. 管理者アカウントのメールアドレスを入力し、「次へ」をクリックします。

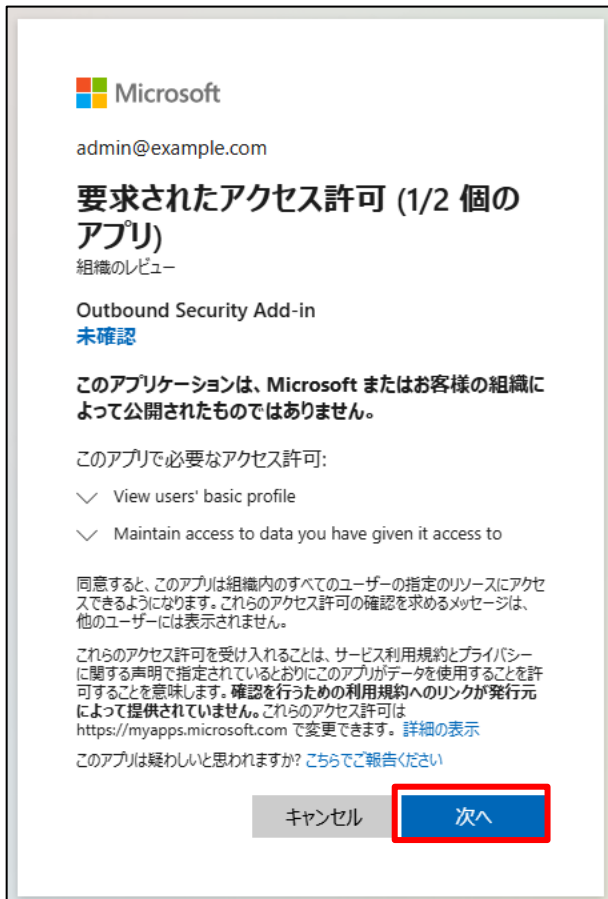


3. 管理者アカウントのパスワードを入力し、「サインイン」をクリックします。



The screenshot shows the Microsoft login interface. At the top is the Microsoft logo. Below it, the email address 'admin@example.com' is displayed with a back arrow. The main heading is 'パスワードの入力' (Enter password). There is a password input field with dots. Below the field is a link 'パスワードを忘れた場合' (Forgot password?). At the bottom right, there is a blue button labeled 'サインイン' (Sign in), which is highlighted with a red rectangular box.

4. 同意画面が表示されるので、「次へ」をクリックします。

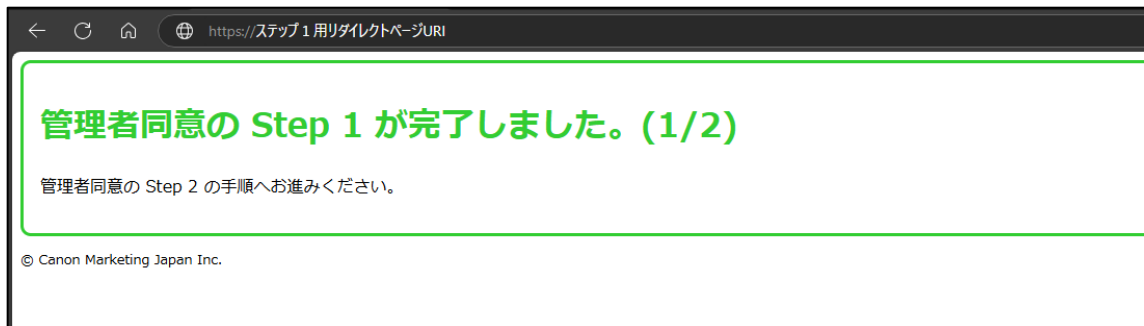


The screenshot shows the Microsoft consent screen. At the top is the Microsoft logo. Below it, the email address 'admin@example.com' is displayed. The main heading is '要求されたアクセス許可 (1/2 個のアプリ)' (Requested permissions (1 of 2 apps)). Below this is '組織のレビュー' (Review the app). The app name is 'Outbound Security Add-in' with a status '未確認' (Unconfirmed). A paragraph states: 'このアプリケーションは、Microsoft またはお客様の組織によって公開されたものではありません。' (This application is not published by Microsoft or your organization). Below this, it says 'このアプリに必要なアクセス許可:' (Permissions required for this app:). There are two permissions listed: 'View users' basic profile' and 'Maintain access to data you have given it access to'. A paragraph explains: '同意すると、このアプリは組織内のすべてのユーザーの指定のリソースにアクセスできるようになります。これらのアクセス許可の確認を求めるメッセージは、他のユーザーには表示されません。' (If you agree, this app will be able to access specified resources for all users in your organization. This message to request permission is not shown to other users). Another paragraph states: 'これらのアクセス許可を受け入れることは、サービス利用規約とプライバシーに関する声明で指定されているとおりこのアプリがデータを使用することを許可することを意味します。確認を行うための利用規約へのリンクが発行元によって提供されていません。これらのアクセス許可は https://myapps.microsoft.com で変更できます。詳細の表示' (Accepting these permissions means you are allowing this app to use data as specified in the service terms and privacy statement. We do not have a link to the terms of use to confirm this. You can change these permissions at https://myapps.microsoft.com. See details). At the bottom, there is a link 'このアプリは疑わしいと思われるか? こちらでご報告ください' (Do you think this app is suspicious? Report it here). At the bottom right, there is a blue button labeled '次へ' (Next), which is highlighted with a red rectangular box. To its left is a grey button labeled 'キャンセル' (Cancel).

5. 同意画面が表示されるので、「承諾」をクリックします。



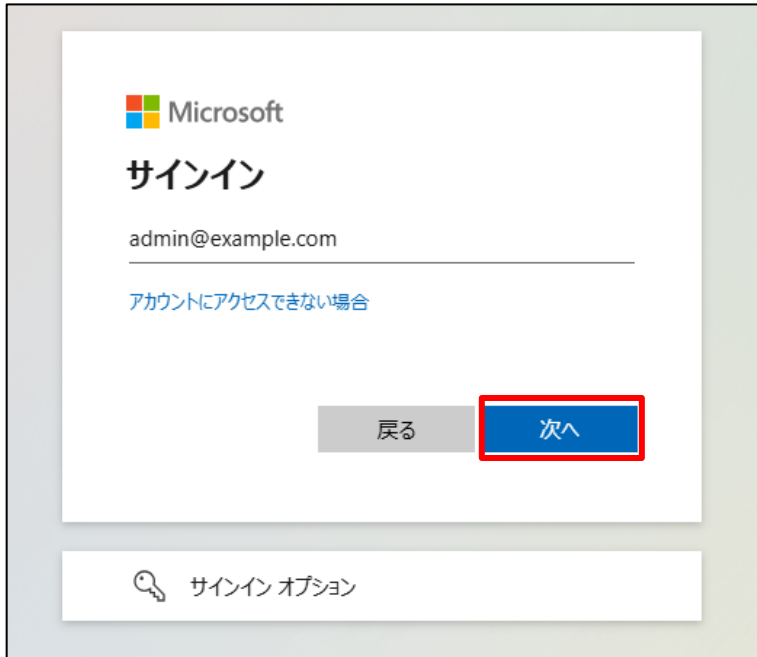
6. Step1 完了画面が表示されます。



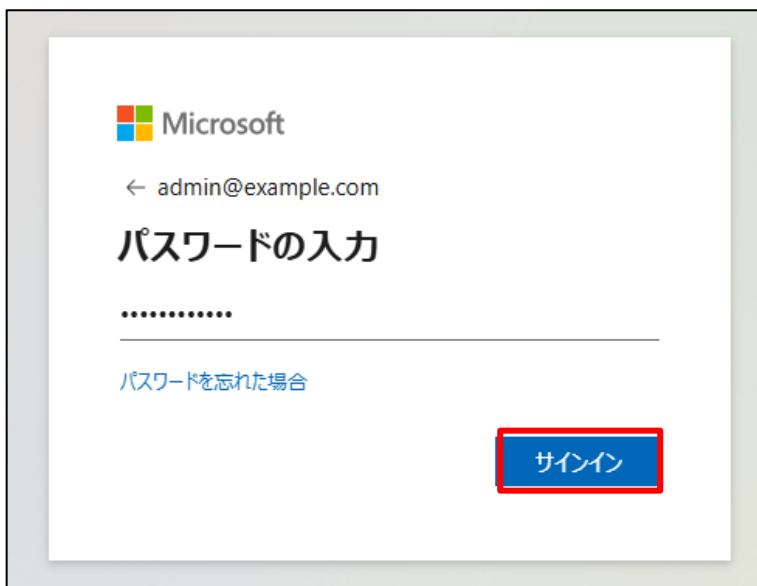
7. 「事前同意用 URL②」をコピーし、Web ブラウザーに入力します。



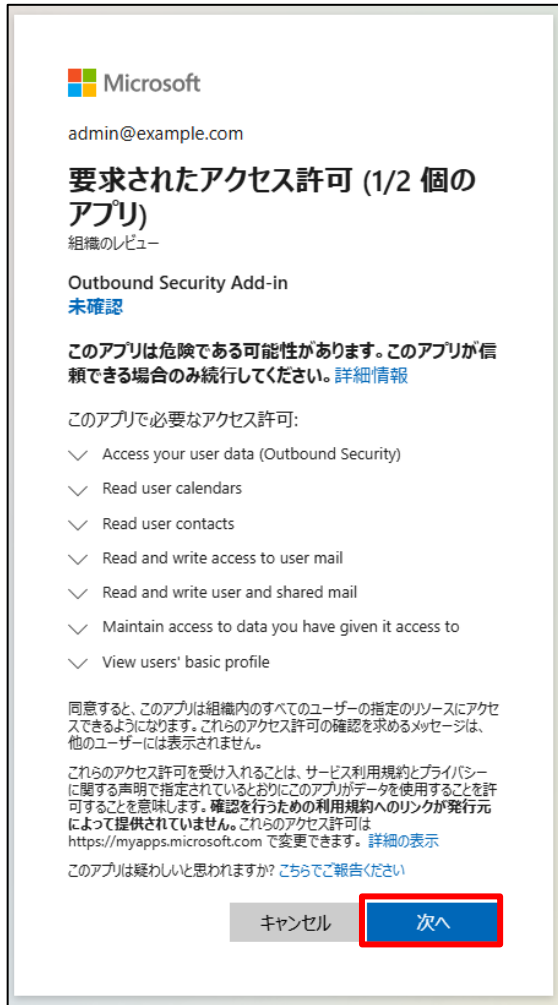
8. 管理者アカウントのメールアドレスを入力し、「次へ」をクリックします。



9. 管理者アカウントのパスワードを入力し、「サインイン」をクリックします。



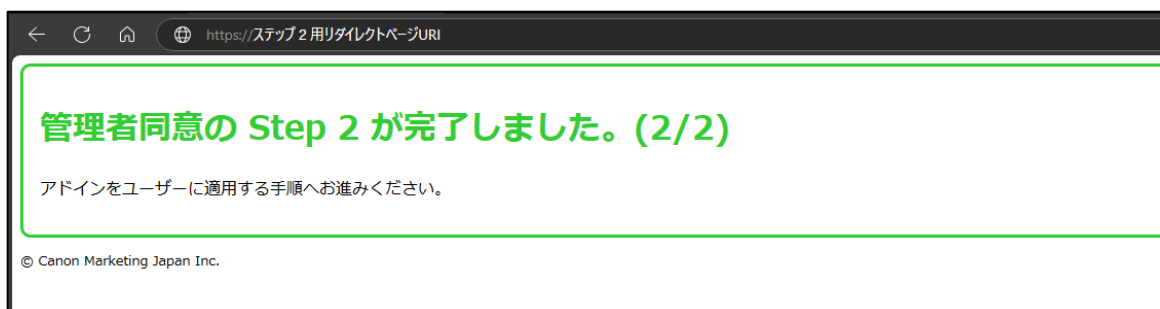
10. 同意画面が表示されるので、「次へ」をクリックします。



11. 同意画面が表示されるので、「承諾」をクリックします。



12. Step2 完了画面が表示されます。

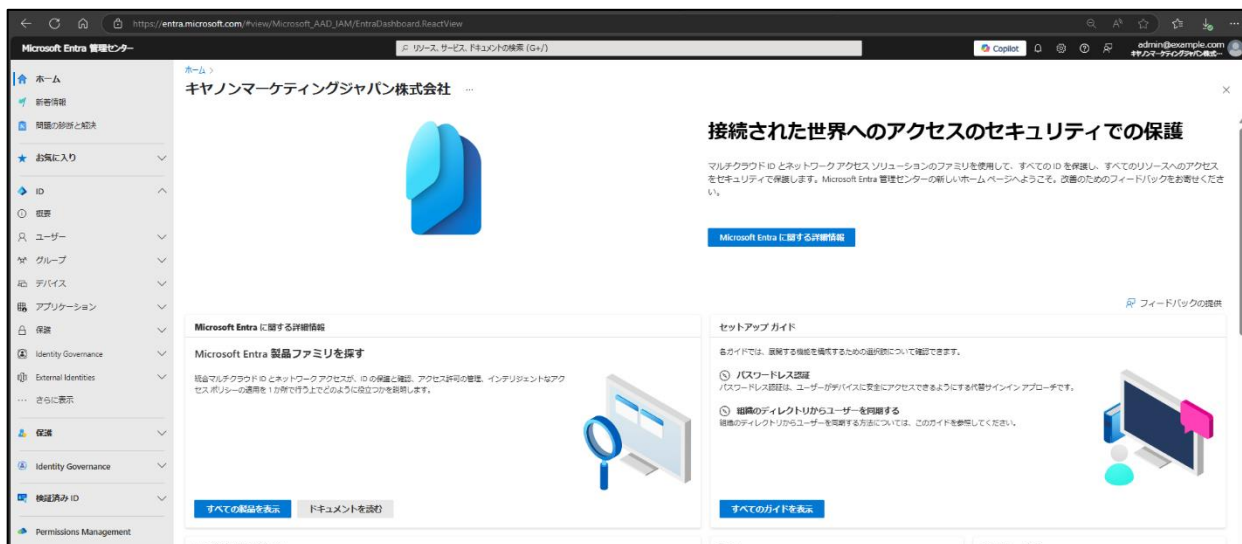


以上で、Outlookアドインの事前同意手順は終了です。

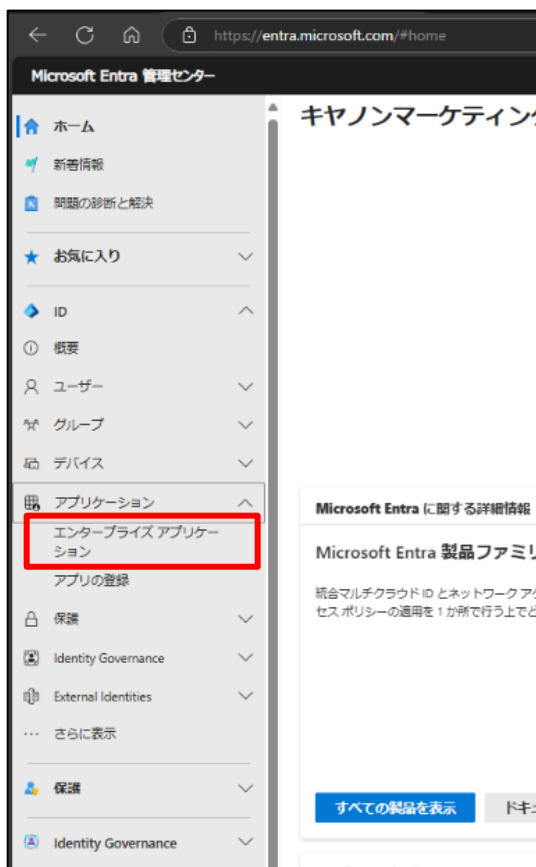
3.2 事前同意後の確認

アドインの事前同意が完了しているか確認する方法について説明します。

1. 管理者アカウントを使用して「<https://entra.microsoft.com/>」から「Microsoft Entra 管理センター」にサインインします。

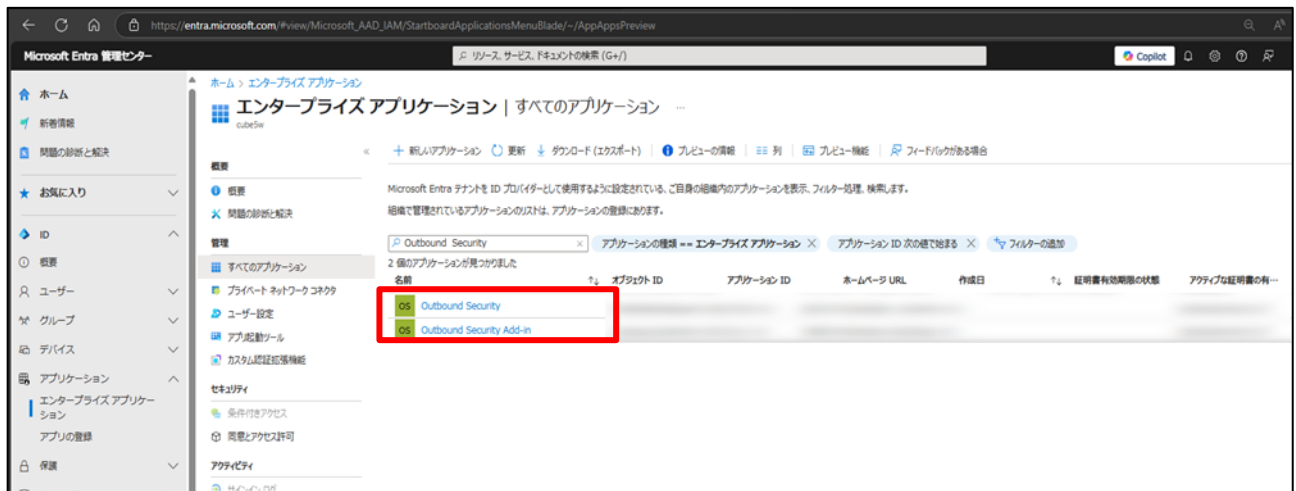


2. 左側のタブから、「アプリケーション」 - 「エンタープライズアプリケーション」をクリックします。

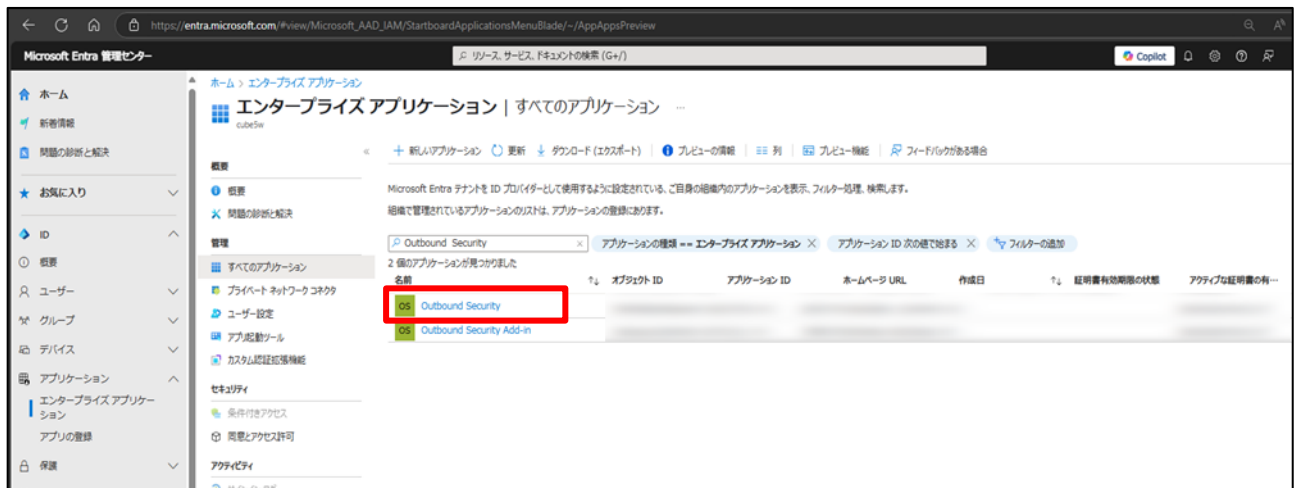


3. 検索ボックスに「Outbound Security」と入力します。

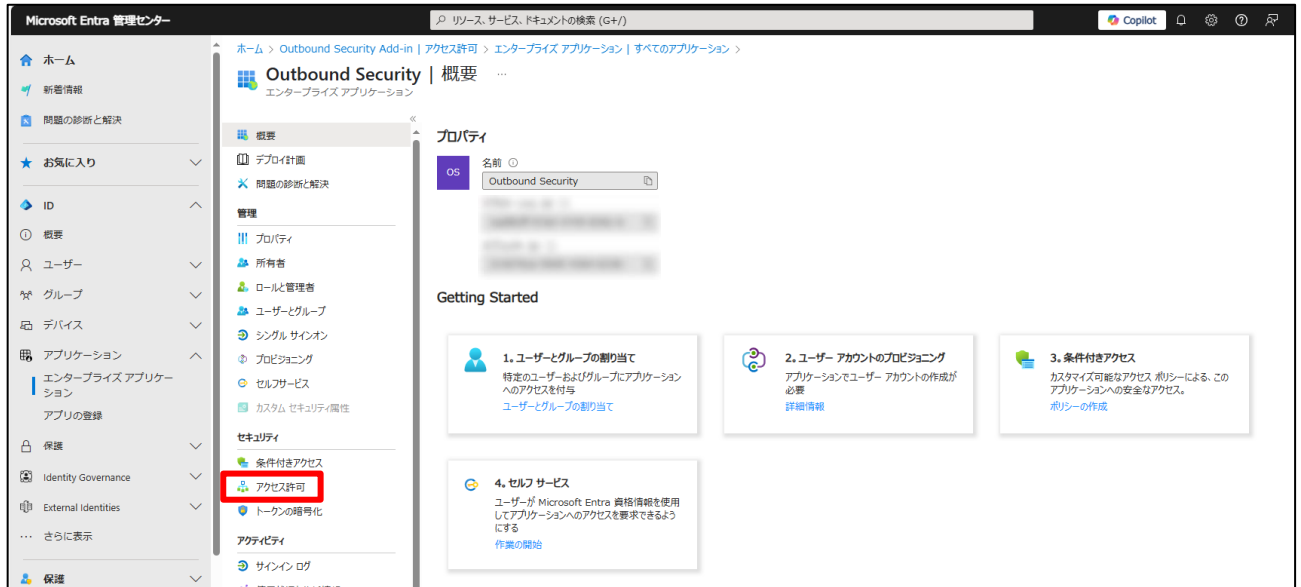
検索結果に、本マニュアルの「3.1 アドインの事前同意」で同意したアプリケーション「Outbound Security」と「Outbound Security Add-in」の2つが表示されます。



4. 「Outbound Security」をクリックします。



5. 概要ページに遷移しますので、「セキュリティ」 - 「アクセス許可」をクリックします。



6. 本サービスに必要なアクセス許可が付与されていることを確認します。必要なアクセス許可は以下です。

Microsoft Graph

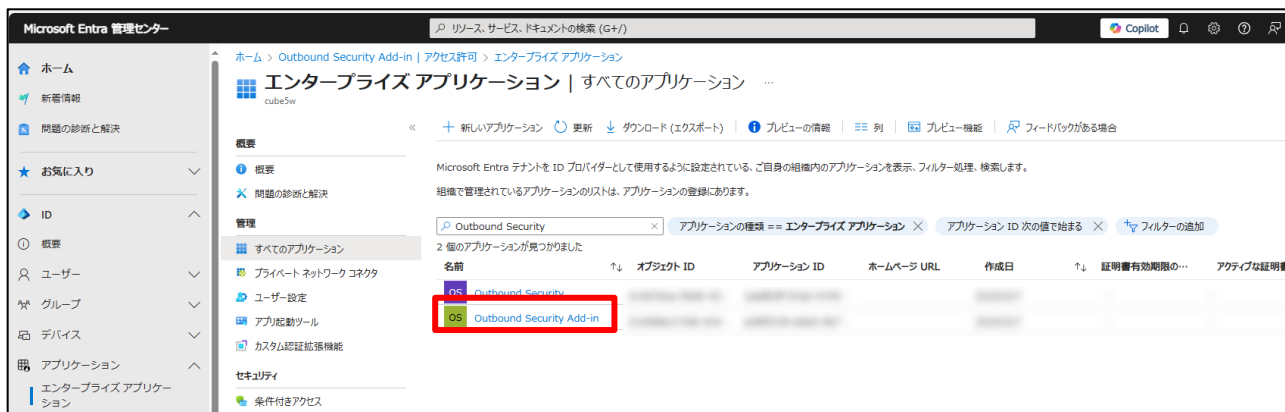
アクセス許可	説明
email	ユーザーの主要なメールアドレスを読み取りできるようにする
profile	ユーザーの基本的なプロフィール（例：名前、写真、ユーザー名、メールアドレス）を読み取りできるようにする
offline_access	ユーザーが現在アプリを使用していないときでも、アプリがアクセスを許可したデータの読み取りや更新をできるようにする
openid	ユーザーが職場または学校のアカウントでアプリにサインインできるようにし、アプリが基本的なユーザープロフィール情報の読み取りをできるようにする

表の内容と、アクセス許可に表示されている内容が一致していることを確認します。

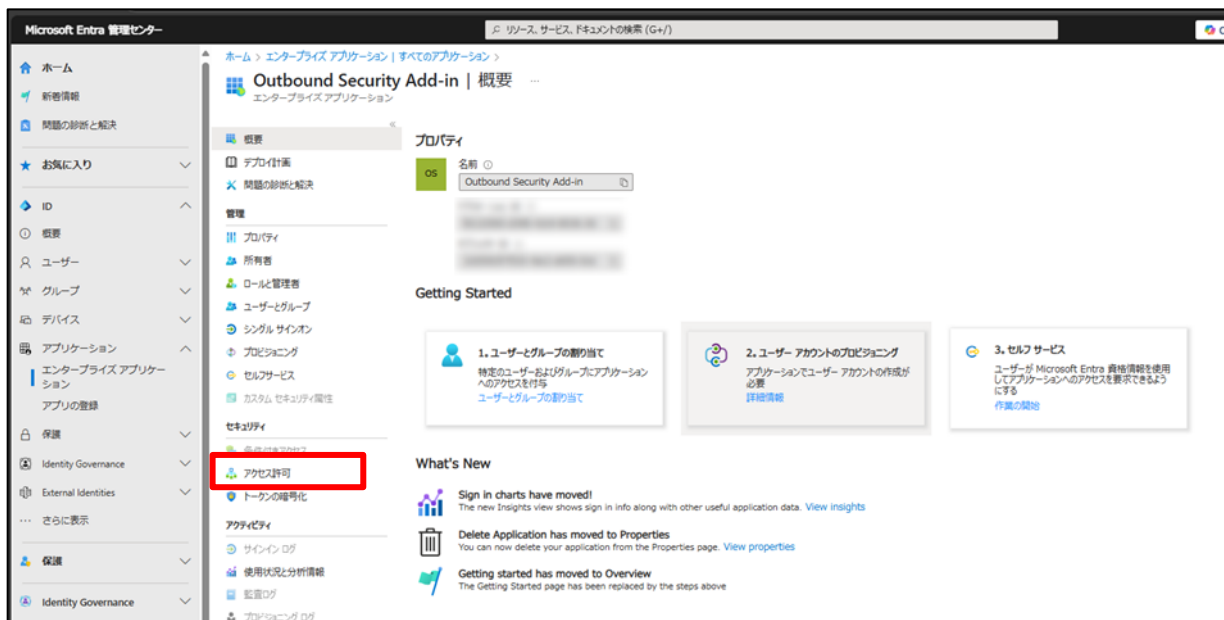
The screenshot shows the 'Access Permissions' page in the Microsoft Entra Management Center. The page title is 'Outbound Security | アクセス許可'. The main content area shows a list of permissions granted to the application 'cube5w'. The permissions are listed in a table with columns: API 名, クレームの値, アクセス許可, 種類, and 付与方法. The permissions are: profile, offline_access, email, and openid, all of which are required and granted by the administrator.

API 名	クレームの値	アクセス許可	種類	付与方法
Microsoft Graph (4)				
Microsoft Graph	profile	View users' basic profile	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	offline_access	Maintain access to data you have given it acces...	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	email	View users' email address	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	openid	Sign users in	委任済み	管理者の同意

7. 手順 2、3 を参考に、エンタープライズアプリケーションの画面を開き、「Outbound Security Add-in」をクリックします。



8. 概要ページに遷移しますので、「セキュリティ」 - 「アクセス許可」をクリックします。



9. 本サービスに必要なアクセス許可が付与されていることを確認します。必要なアクセス許可は以下です。

Microsoft Graph

アクセス許可	説明
Mail.ReadWrite	ユーザーがメールの読み取りおよび書き込みをできるようにする
Mail.ReadWrite.Shared	ユーザーがメールと共有のメールの読み取りと書き込みをできるようにする
Calendars.Read	ユーザーがカレンダーの読み取りをできるようにする
Contacts.Read	ユーザーが連絡先の読み取りをできるようにする
email	ユーザーの主要なメールアドレスを読み取りできるようにする
profile	ユーザーの基本的なプロフィール（例：名前、写真、ユーザー名、メールアドレス）を読み取りできるようにする
offline_access	ユーザーが現在アプリを使用していないときでも、アプリがアクセスを許可したデータの読み取りや更新をできるようにする
openid	ユーザーが職場または学校のアカウントでアプリにサインインできるようにし、アプリが基本的なユーザープロフィール情報の読み取りをできるようにする

Outbound Security

アクセス許可	説明
access_as_user	アプリがユーザーデータの読み取りと書き込みをできるようにする

表の内容と、アクセス許可に表示されている内容が一致していることを確認します

Microsoft Graph のアクセス許可が一覧表示されます。

API 名	クレームの種類	アクセス許可	種類	付与方法
Microsoft Graph (8)				
Microsoft Graph	Calendars.Read	Read user calendars	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	Contacts.Read	Read user contacts	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	email	View users' email address	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	Mail.ReadWrite	Read and write access to user mail	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	Mail.ReadWrite.Shared	Read and write user and shared mail	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	offline_access	Maintain access to data you have given it acces...	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	openid	Sign users in	委任済み	管理者の同意
Microsoft Graph	profile	View users' basic profile	委任済み	管理者の同意
Outbound Security (1)				
Outbound Security	access_as_user	Access your user data	委任済み	管理者の同意

Outbound Security のアクセス許可が一覧表示されます。

以上で、アドインの事前同意が完了しているか確認する手順は終了です。

続けて、Outlookアドインの追加作業を実施します。「4 Outlookアドインの追加」を参照してください。

3.3 アドインの事前同意で操作に困ったら

本章は、アドインの事前同意にあたり、困ったときの対処方法を説明します。

本マニュアルに記載のない場合、お手数ですがサポート窓口までお問い合わせください。

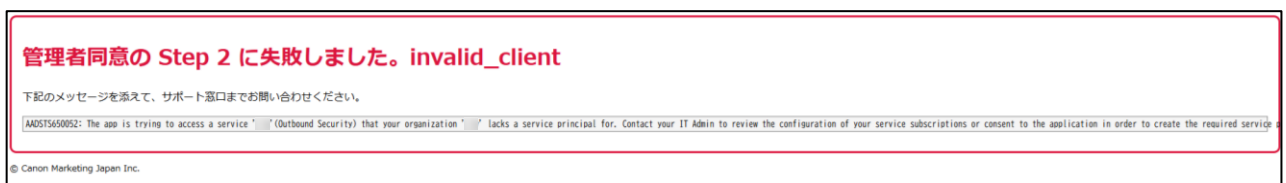
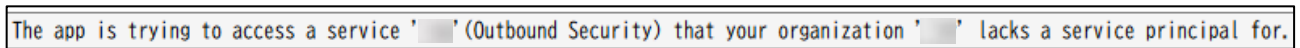
3.3.1 アドインの事前同意に失敗する

アドインの事前同意に失敗した場合、以下のようなエラー画面が表示されます。エラーメッセージの内容について、ご確認をお願いいたします。



- 事前同意 URL を使用する順番を間違えた場合

「3.1 アドインの事前同意」にて、「事前同意用URL②」から使用した場合、以下のメッセージが表示されます。その場合は「3.1 アドインの事前同意」に記載の手順を最初から実施してください。



- 事前同意を途中でキャンセルした場合

事前同意を途中でキャンセルした場合、以下のメッセージが表示されます。キャンセルした場合、再度「事前同意用URL」を使用して、アドインの事前同意を実施してください。



3.3.2 事前同意を行う前にユーザーがアドインを使用した

アドインの事前同意実施を行う前に、ユーザーが本サービスを使用した場合、次の対応をしてください。

● 管理者によるアドインの同意を実施する

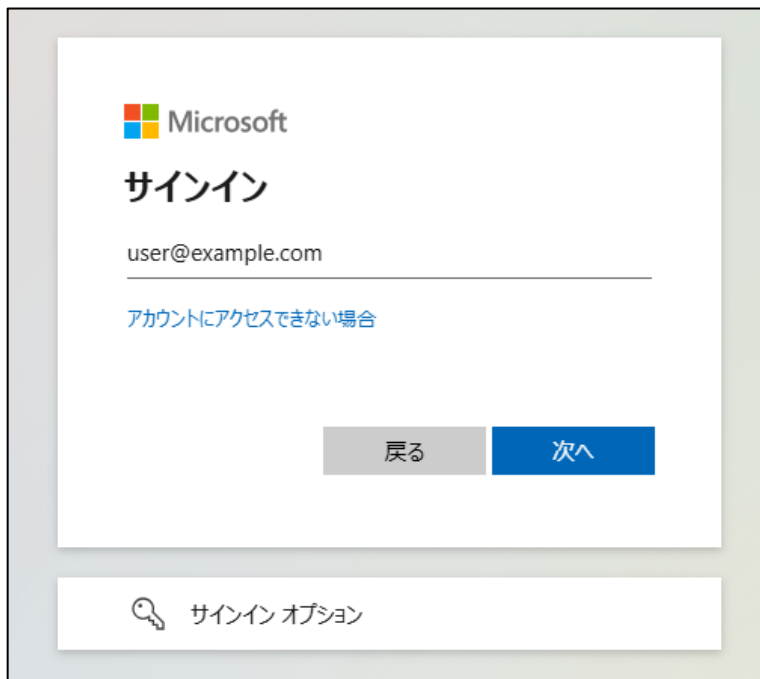
管理者によるOutbound Security for Microsoft 365アドインの事前同意実施を行う前に、ユーザーが本サービスを使用した場合、次の画面が表示されます。



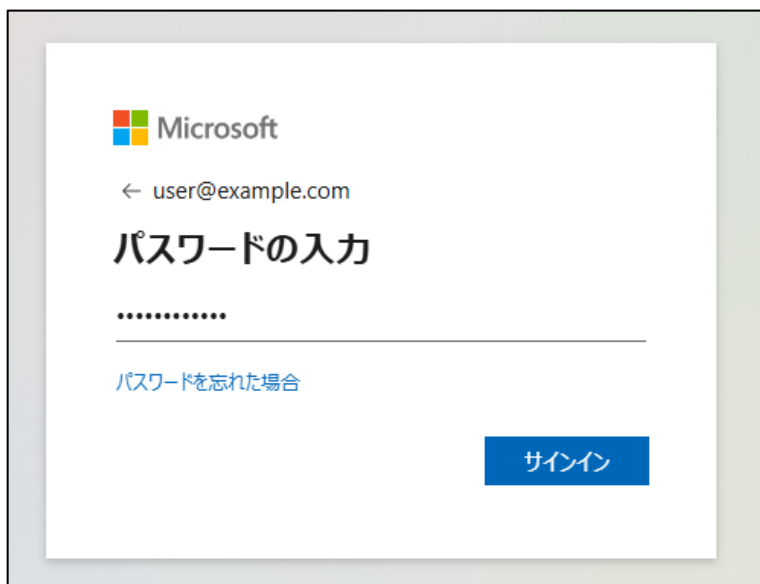
アドインの事前同意が完了するまで本サービスの利用ができません。そのため、本マニュアルの「3.1 アドインの事前同意」を実施してください。

3.3.3 管理者権限がないアカウントで事前同意を実施した

管理者権限を持っていないアカウントを使用してアドインの事前同意を実施した場合、次の画面が表示されます。



The screenshot shows a Microsoft sign-in interface. At the top is the Microsoft logo. Below it is the title 'サインイン' (Sign in). A text input field contains 'user@example.com'. Below the field is a link that says 'アカウントにアクセスできない場合' (If you can't access your account). At the bottom are two buttons: '戻る' (Back) and '次へ' (Next). Below the main content area is a section titled 'サインイン オプション' (Sign-in options) with a key icon.



The screenshot shows a Microsoft password input screen. At the top is the Microsoft logo. Below it is the email address 'user@example.com' with a back arrow. The title is 'パスワードの入力' (Enter password). Below the title is a password input field with dots. Below the field is a link that says 'パスワードを忘れた場合' (If you forgot your password). At the bottom right is a blue button labeled 'サインイン' (Sign in).



アドインの事前同意を実施できるのは管理者権限を持つアカウントのみになります。管理者権限を持つアカウントで、本マニュアルの「3.1 アドインの事前同意」を実施してください。

4. Outlook アドインの追加

本サービスのOutlookアドインを利用するにあたり、Exchange Onlineサービスヘマニフェストファイルの登録が必要になります。本章では、Microsoft 365サービスの管理者が一括で登録する方法、および個人が個別に登録する方法をご紹介します。

4.1 管理者による Outlook アドインの展開

Microsoft 365サービスの管理者は、組織内のユーザーに対してOfficeアドインの一元的な展開管理が行えます。ここでの管理者とは、ユーザーアカウントの役割にグローバル管理者、Exchange管理者などのアドインの展開管理ができる権限を付与されたユーザーのことです。各役割の詳細については、「Microsoft 365 管理センターのヘルプ」の[「管理者ロールについて」](#)をご参照ください。

管理者による展開には、Microsoft 365 管理センターの統合アプリポータルを使用する方法、Microsoft 365 管理センターのアドインの一元展開を使用する方法、Exchange管理センターのアドインの管理を使用する方法、Microsoft PowerShellコマンドレットを使用する方法があります。ご契約のMicrosoft 365サービスのプランによっては、Microsoft 365 管理センターからのアドインの展開ができないことがありますのでご注意ください。

本節では、「Microsoft 365 管理センター」からアドインの一元展開機能を使用して本サービスのOutlookアドインを展開・確認する方法を説明します。



本サービスの Outlook アドインの展開には別途マニフェストファイルが必要です。
あらかじめご用意ください。



「統合アプリポータル」と「アドインの一元展開」はそれぞれ別の機能になります。
本節では「アドインの一元展開」について記載しています。

1. Microsoft 365 に管理者権限でログインし、「管理」をクリックします。



2. 「Microsoft 365 管理センター」の画面に移行後、左側のタブの「設定」 - 「統合アプリ」をクリックします。



3. 「Add-ins」をクリックします。



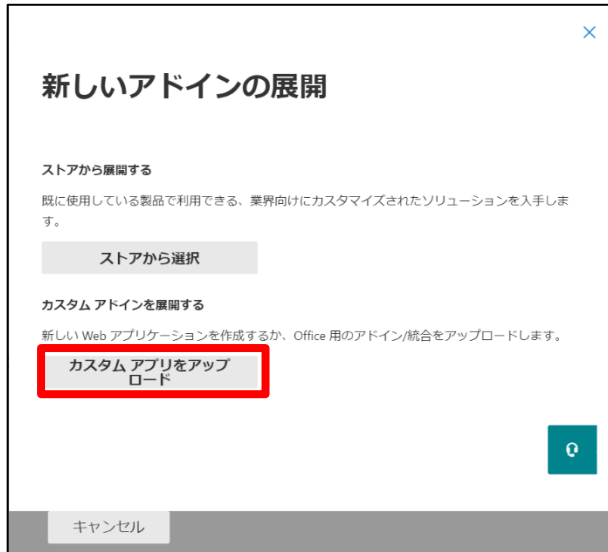
4. 「アドインの展開」をクリックします。



5. 右側にアドインの一元展開用の画面が表示されるので、表示内容を確認して「次へ」をクリックします。



6. 「カスタム アプリをアップロード」をクリックします。



7. 「マニフェスト ファイルの URL がわかります」を選択し、本サービスの Outlook アドインのマニフェストファイルの URL を入力し、「アップロード」をクリックします。



「マニフェスト ファイルの URL がわかります」に入力する URL は、「https://」から記載する必要があります。

8. 「アドインの構成」画面が表示されるので、構成方法を選択して「展開」をクリックします。

アドインの構成



Outbound Security
 開発元: Canon Marketing Japan Inc.

ユーザーの割り当て
Outbound Security に対するアクセスを許可するユーザーを選択します

☐ すべてのユーザー
☒ 特定のユーザー / グループ
追加または削除する特定のユーザーまたはグループを検索します

TU Test User

☐ 自分だけ

展開方法

☒ 固定 (既定)
アドインは割り当て済みのユーザーに自動的に展開されます。ユーザーはアドインをリボンから削除できません。

☐ 利用可能
ユーザーは、Outlook で [ホーム] リボンの [その他のアドインを入手] ボタンをクリックし、[管理者が管理] に移動して、このアドインをインストールできます。

☐ 省略可能
アドインは割り当て済みのユーザーに自動的に展開されますが、ユーザーはアドインをリボンから削除することを選択できます。

[展開] を選択すると、割り当て済みのユーザーがアプリを次回起動したときに、ユーザーのリボンでアドインが利用できるようになります。

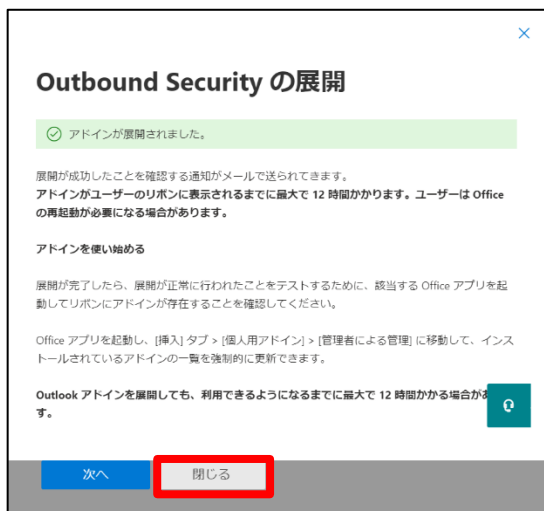
展開
キャンセル

ご利用の環境に合わせて、組織内のユーザーの割り当て方法や展開方法を変更することで、特定のユーザーのみを対象としたアドインの展開、またはユーザーによるアドインの削除を禁止することができます。通常は運用に合わせて任意に選択して、アドインの展開を行ってください。アドインの削除を禁止する場合は、展開方法で「固定（既定）」を選択して、アドインの展開を行ってください。各項目の詳細は「Microsoft 365 管理センターのヘルプ」の[「管理センターでアドインを展開する」](#)をご参照ください。



展開したアドインの反映に最大で 24 時間かかることがありますのでご注意ください。

9. 「閉じる」をクリックします。

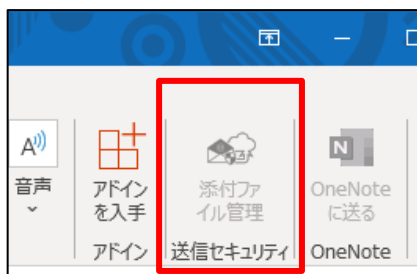


10. 展開対象のユーザーで Outlook アプリを表示して、本サービスの Outlook アドインが追加できたかどうかを確認します。

各プラットフォームの Outlook アプリでの確認方法は次の通りです。

Outlook for Windows の場合

リボンメニューに「添付ファイル管理」が表示されます。



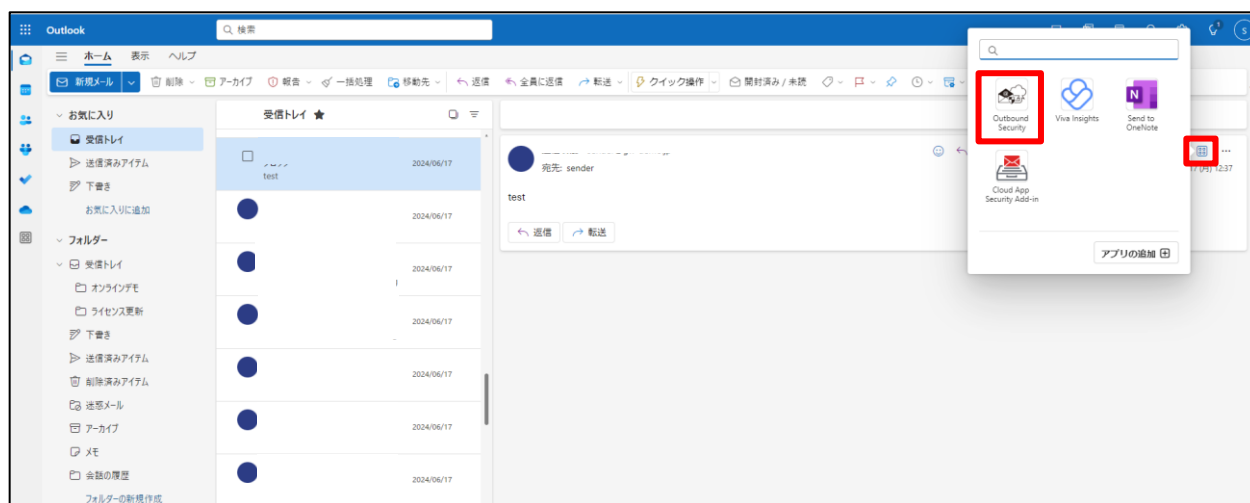
Outlook for Mac の場合

ツールバーに「Outbound Security」が表示されます。



Outlook on the web の場合

下書きメール以外のメールを選択して「」アイコンを選択すると、「Outbound Security」が表示されます。



以上で、管理者によるアドインの一元展開でのOutlookアドイン追加手順は終了です。

追加したアドインを削除したい場合は、本マニュアルの「5.1.1 Outlookアドインを削除する（管理者）」をご参照ください。

4.2 組織内のユーザーごとに Outlook アドインを追加

組織内のユーザーは任意にアドインを追加できます。本節では、Outlookアプリに対してアドインの追加または削除する方法をご紹介します。



ユーザーによる追加ではアドインの削除を禁止できませんので、ご注意ください。
アドインの削除を禁止する場合は、本マニュアルの「4.1 管理者による Outlook アドインの展開」をご参照ください。



本サービスの Outlook アドインの追加には別途マニフェストファイルが必要です。
あらかじめご注意ください。



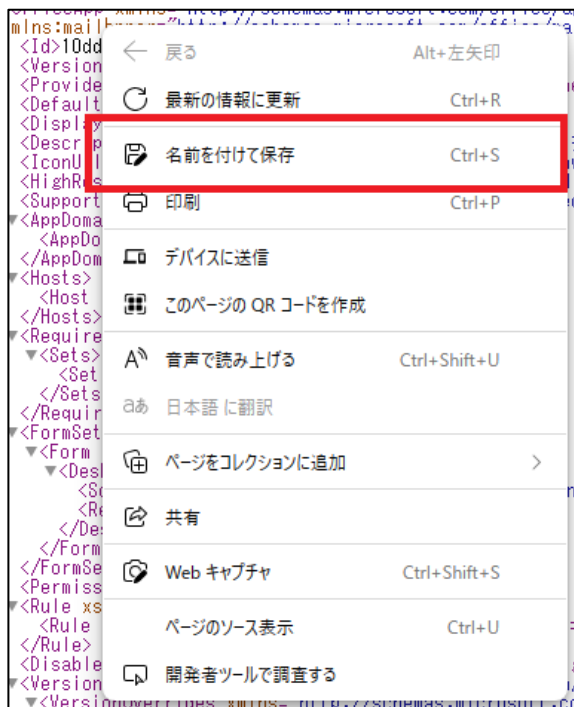
Outlook for Windows のバージョンによって、アイコンが「アドインを入手」から「すべてのアプリ」に変化します。また、アドインの追加手順が異なることがあります。
詳細は別途 Microsoft のドキュメント「[Outlook 用 Office アドインの入手](#)」をご参照ください。



2023 年 10 月に「URL から追加」機能が廃止されました。
代わりに「ファイルから追加」からアドインの追加を行う必要があります。

1. Web ブラウザーから納品のご案内メールに記載された「マニフェストファイルの URL」にアクセスして、マニフェストファイルをローカルに保存します。

- ① Web ブラウザーを開き、「マニフェストファイルの URL」をアドレスバーに入力します。
- ② ページを右クリックし、表示されるコンテキストメニューから「ページを保存」または「名前を付けて保存」を選択します。



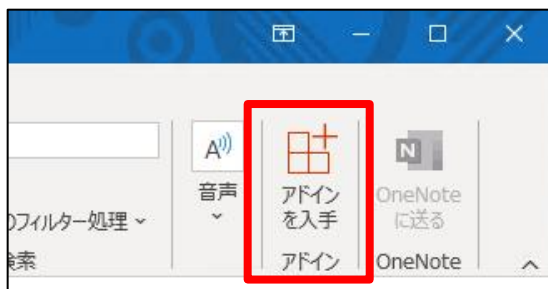
- ③ ファイルの保存先を指定し、保存ボタンをクリックします。

※ご利用の Web ブラウザーによっては、①の手順にてマニフェストファイルの内容を表示する代わりにそのままファイルがダウンロードいたします。その場合は②の手順を省略し、そのままファイルを保存してください。

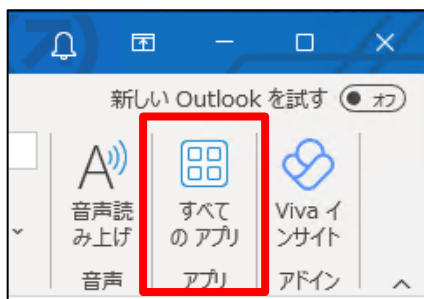
2. アドインの参照画面を表示します。

Outlook for Windows の場合

Windows 版の Outlook アプリを起動して、リボンメニューの「アドインを入手」アイコンをクリックします。



リボンメニューに「すべてのアプリ」アイコンがある場合は、2024年11月現在はOutlook for Windowsからはアドインの追加・削除は行えないため、代わりにOutlook on the webの画面を開く必要があります。



2024 年 11 月時点で、「すべてのアプリ」からはアドインの追加・削除が行えません。
詳細は別途「[Outlook アドインをサイドロードする](#)」をご参照ください。

Outlook for WindowsからOutlook on the webの画面を開く場合は、ファイルメニューから「アドインの管理」をクリックしてください。自動的にWebブラウザが起動して、アドインの追加・削除ができる画面が表示されます。「アドインの管理」は単純なリンクであるため、Outlook on the webのサインインユーザーはOutlook for Windowsと同じユーザーにする必要がありますのでご注意ください。Webブラウザですでに別のユーザーでOutlook on the webを利用している場合は、そのユーザーに対してのアドインの追加・削除ができる画面が開きます。





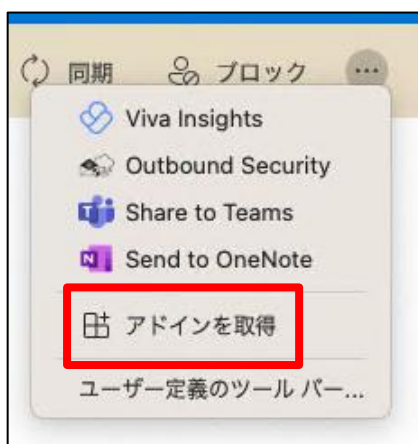
リボンメニューに「田」または「田」アイコンが表示されない場合は、ご利用環境の Microsoft 365 管理者が個人用アクセスを許可していない可能性があります。
ご利用環境の組織の管理者にお問い合わせください。

詳細は別途 Microsoft のドキュメントをご参照ください。

[「Exchange Online で Outlook 用アドインをインストールおよび管理できる管理者とユーザーを指定する」](#)

Outlook for Mac の場合

Mac 版の Outlook アプリを起動して、Outlook のツールバーから「アドインを取得」をクリックします。



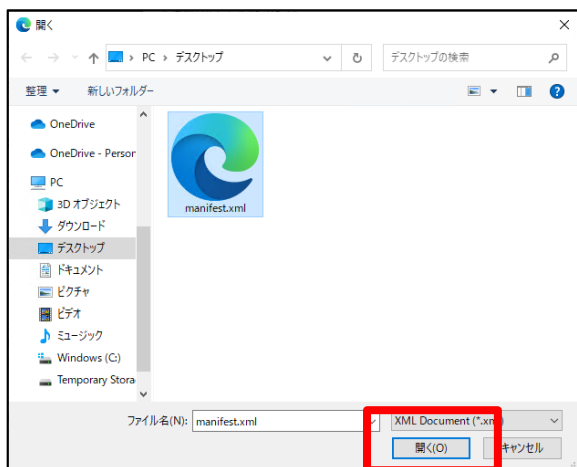
Outlook on the web の場合

Web ブラウザーから「<https://aka.ms/olksideload>」にアクセスします。

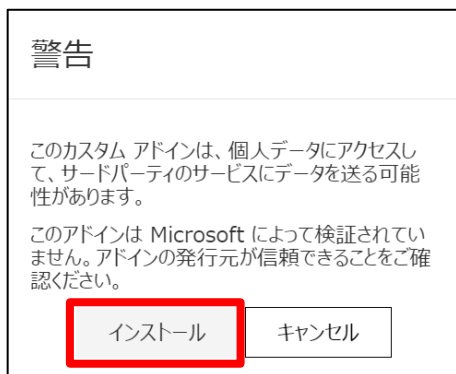
3. 「個人用アドイン」を選択して、「カスタム アドインの追加」から「ファイルから追加...」をクリックします。



4. 手順 1 にてダウンロードしたマニフェストファイルを選択して、「開く」をクリックします。



5. 警告メッセージが表示されるので、「インストール」をクリックします。

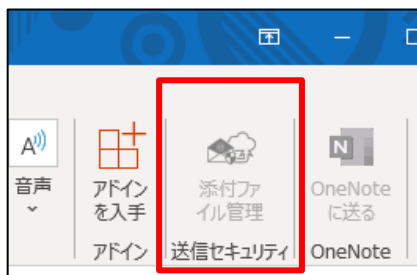


6. 本サービスの Outlook アドインが追加できたかどうかを確認します。

各プラットフォームの Outlook アプリでの確認方法は次の通りです。

Outlook for Windows の場合

リボンメニューに「添付ファイル管理」が表示されます。



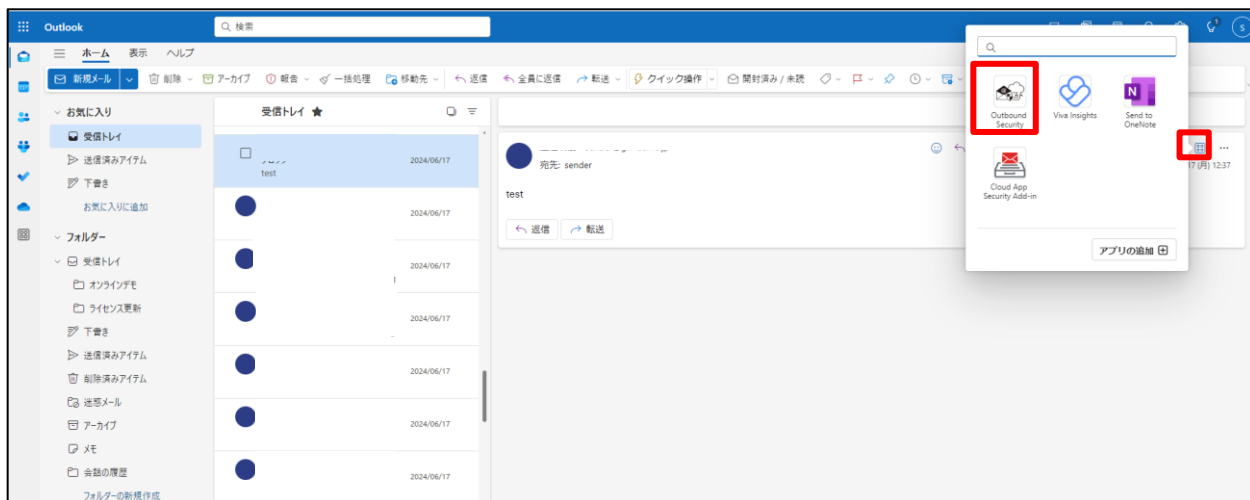
Outlook for Mac の場合

ツールバーに「Outbound Security」が表示されます。



Outlook on the web の場合

下書きメール以外のメールを選択して「」アイコンを選択すると、「Outbound Security」が表示されます。



以上で、組織内のユーザーでのOutlookアドイン追加手順は終了です。

追加したアドインを削除したい場合は、本マニュアルの「5.1.2 Outlookアドインを削除する（組織内のユーザー）」をご参照ください。



追加したアドインの反映に最大で 24 時間かかることがありますのでご注意ください。

5. こんなときは

本章は、本サービスのOutlookアドインの導入にあたり、困ったときの対処方法をご紹介します。
導入済みのOutlookアドインのご利用方法については、「ユーザー運用ガイド」をご参照ください。

5.1 Outlook アドインを削除したい

本サービスのOutlookアドインを追加した後に、別の機能を持つOutlookアドインを利用したい場合は、導入済みのOutlookアドインを削除してから、利用したい機能のマニフェストファイルで登録しなおす必要があります。Outlookアドインの削除については、以下の手順を実施ください。

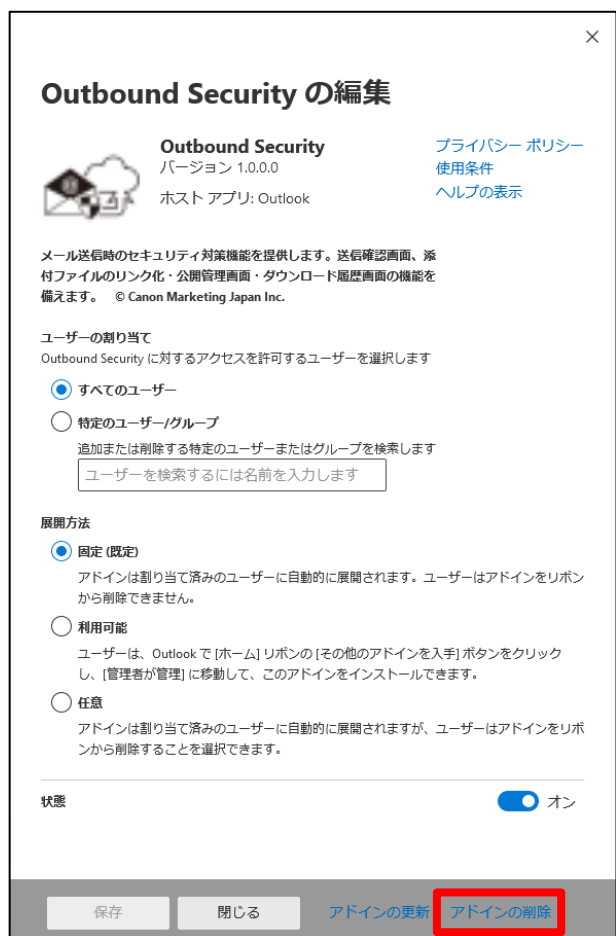
5.1.1 Outlook アドインを削除する（管理者）

「Microsoft 365 管理センター」のアドインの一元展開機能を使用して展開済みのアドインを削除する方法についてご紹介します。アドインの展開管理画面の表示方法については、「4.1 管理者によるOutlookアドインの展開」をご参照ください。

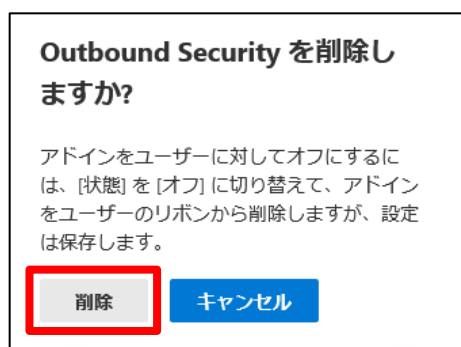
1. 削除したいアドインを選択します。



2. 右下の「アドインの削除」をクリックします。



3. ダイアログ画面が表示されるので、「削除」をクリックします。



以上で、展開済みのアドインの削除は完了です。



アドインの削除には最大 72 時間かかることがあります。

詳しくは [「一元展開に関する FAQ」](#) をご参照ください。

5.1.2 Outlook アドインを削除する（組織内のユーザー）

Outlookアプリからアドインを削除する方法についてご紹介いたします。アドインの参照画面の表示方法については、「4.2 組織内のユーザーごとにOutlookアドインを追加」をご参照ください。

1. アドインの参照画面を表示します。
2. インストール済みのアドインの右下の「***」を選択し、「削除」をクリックします。



以上で、追加済みのアドインの削除は完了です。

5.2 アドインが動かない

本サービスのOutlookアドインがOutlookアプリで表示されているに関わらず、アドインのアイコンをクリックして実行してもエラーが表示される場合は、以下の原因が考えられます。

- プロキシでアドインの通信がブロックされている
- 動作対象外の環境で使おうとしている

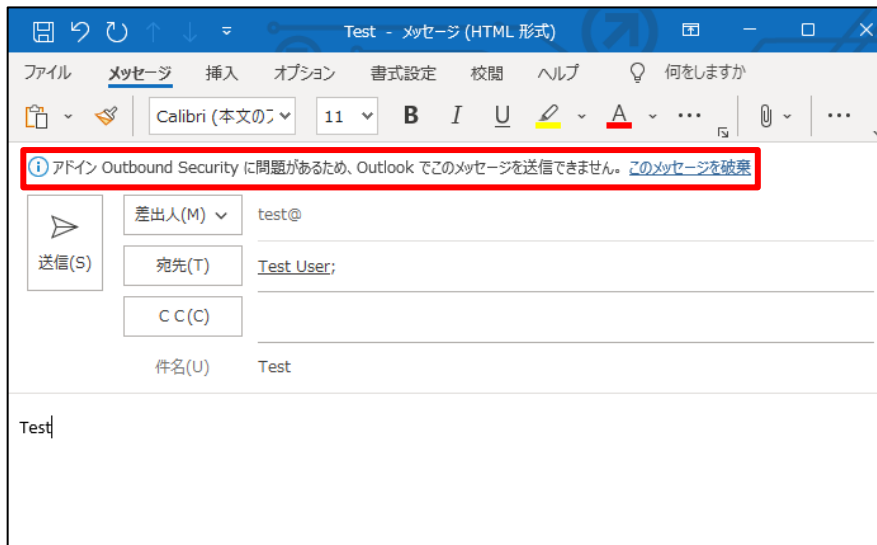
動作環境については、本マニュアルの「2.3 動作環境」をご参照ください。Outlook for Windowsで本サービスのOutlookアドインを利用するためのバージョンの確認方法は本節で紹介いたします。

5.2.1 表示内容を確認める

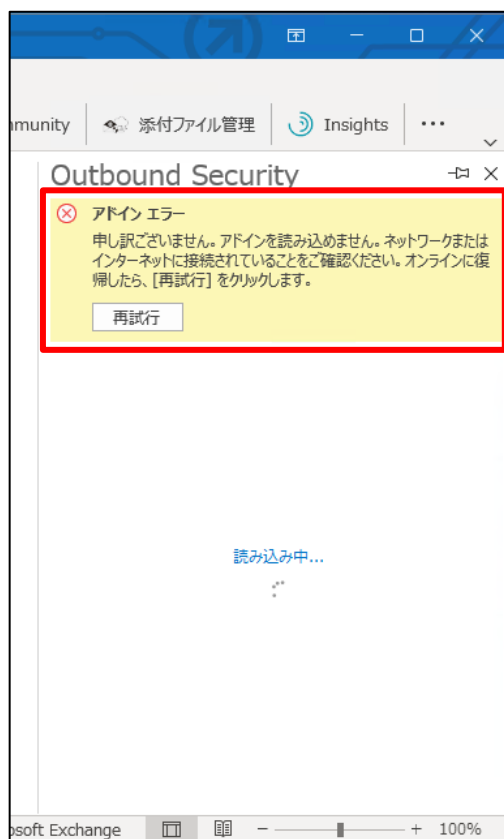
アドインが正常に読み込めていない場合の挙動は以下の通りです。

Outlook for Windows の場合

1. Outlook アプリの送信ボタンをクリックしたとき、次のエラーメッセージが表示されます。

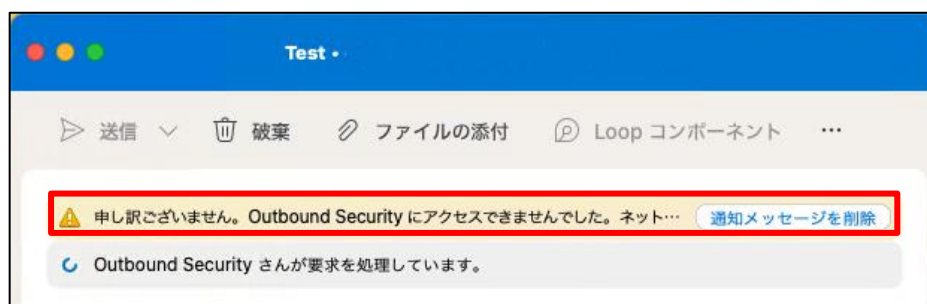


2. 本サービスの Outlook アドインの管理画面を開いたとき、次のエラーメッセージが表示されます。

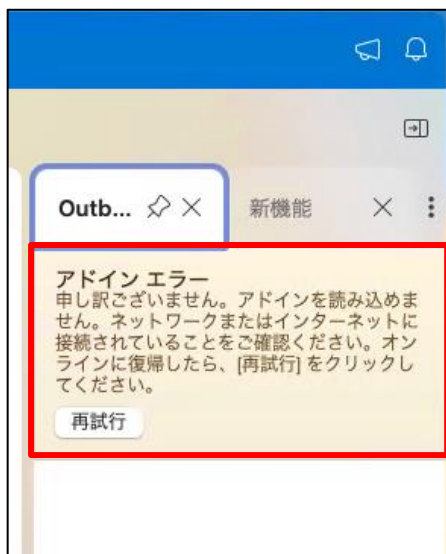


Outlook for Mac の場合

1. Outlook アプリの送信ボタンをクリックしたとき、次のエラーメッセージが表示されます。

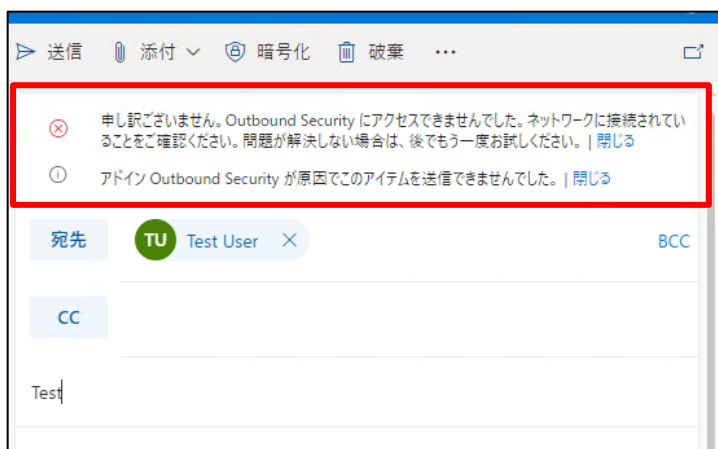


2. 本サービスの Outlook アドインの管理画面を開いたとき、次のエラーメッセージが表示されます。

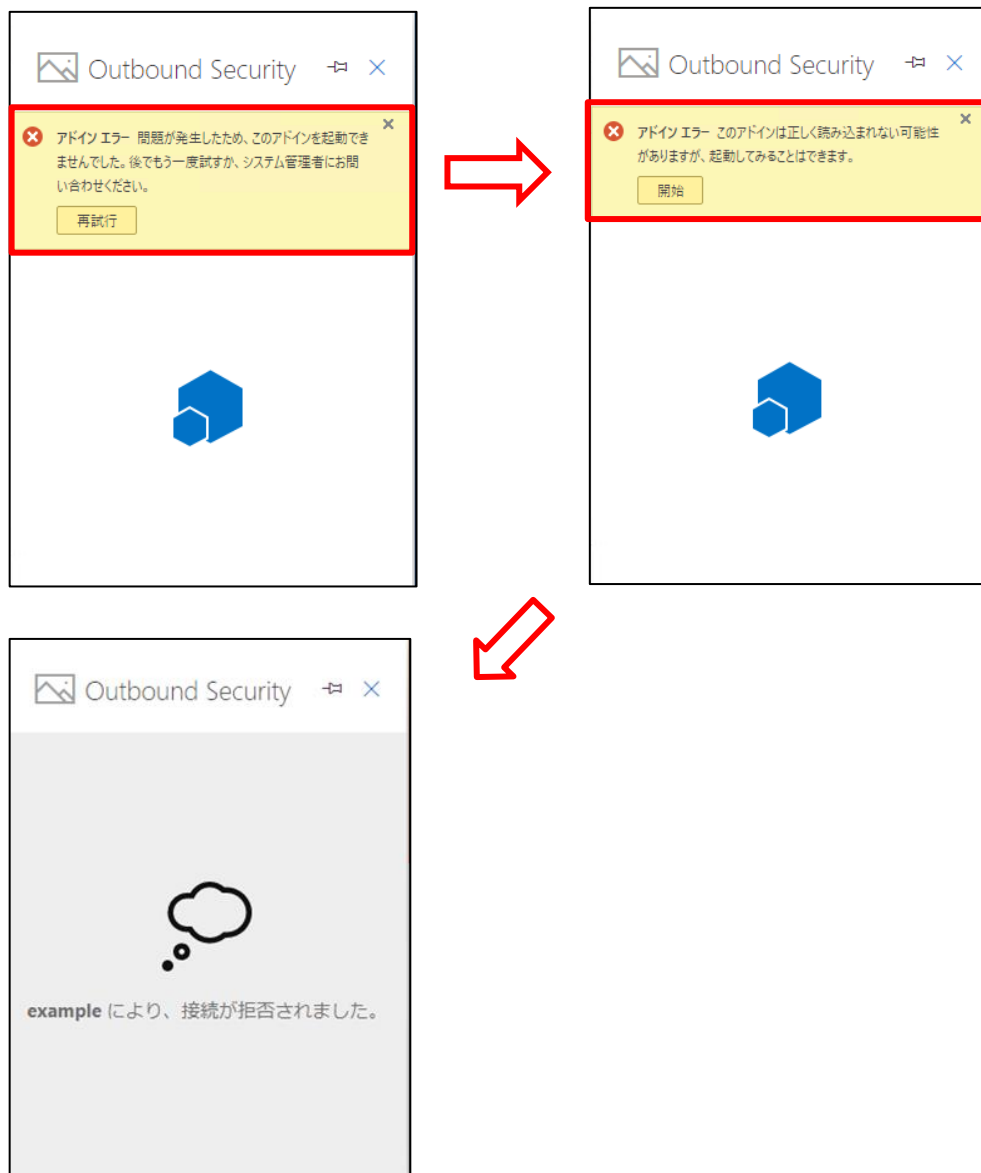


Outlook on the web の場合

1. Outlook アプリの送信ボタンをクリックしたとき、次のエラーメッセージが表示されます。



2. 本サービスの Outlook アドインの管理画面を開いたとき、アドインエラーが表示されます。このとき、表示されたエラー内のボタンをクリックすることで画面が遷移しますが、最終的に「接続が拒否されました。」エラーメッセージが表示されます。



5.2.2 Windows 版のバージョンを確かめる

Outlook for Windowsのバージョンが本サービスのOutlookアドインの動作環境を満たしているかどうかご確認ください。Outlook for WindowsのバージョンとWindowsのバージョンは、Microsoftのライフサイクルポリシーに準拠したサポート期間内のバージョンをご利用ください。

新しいOutlook for Windowsは、One Outlookプロジェクトから生まれたOutlookです。Microsoft Storeから入手ことができ、従来のOutlook for Windowsと異なり、Webテクノロジーで構成されています。One OutlookはすべてのOutlookを一つのコードで実現するため、新しいOutlook for WindowsはOutlook on the webと同様の仕様となります。また、従来のOutlook for Windowsのフラグ機能やCOMアドインなどが使用できなくなるなど、使用感に大きな変更があります。新しいOutlookが不要な場合は、切り替えトグルを非表示にすることができます。



新しいOutlook for Windows は Microsoft Store から入手できます。

[「Outlook for Windows - Microsoft Store アプリ」](#)



新しいOutlook for Windows の詳細は下記記事をご参照ください。

[「The new Outlook for Windows for organization admins」](#)



「新しいOutlookを試す」トグルを非表示にする方法は下記記事をご参照ください。

[「新しい Outlook for Windows への従業員アクセスを有効または無効にする」](#)

Outlook for Windows のバージョン確認方法

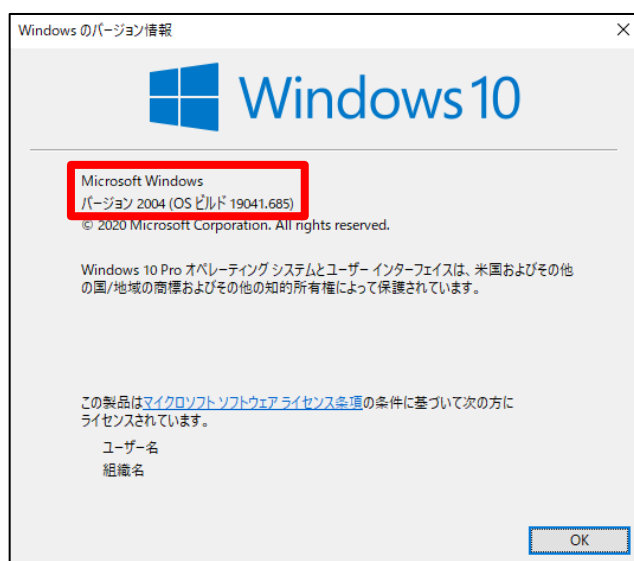
1. Windows 版の Outlook アプリを起動します。
2. 「ファイル」メニューを選択します。
3. 「Office アカウント」をクリックします。



詳細はMicrosoftのドキュメントの[「使用している Office のバージョンを確認する方法」](#)をご参照ください。また、同画面内の製品情報で「Microsoft 365 Apps for enterprise」などのご契約のライセンスを確認できます。

Windows のバージョン確認方法

1. スタートメニューを右クリックして、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 名前欄に「winver」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。



詳細はMicrosoftのドキュメントの[「使用中の Windows オペレーティング システムのバージョンを確認する」](#)をご参照ください。

Outlook for WindowsのバージョンがWebView2ベースに対応している場合、自動的にMicrosoft Edge WebView2 ランタイムがWindowsにインストールされます。手動で導入する場合は、Microsoft Edge WebView2ランタイムの配布サイトより入手してWindowsにインストールしてください。

Microsoftでは、Microsoft 365サービスへの接続の要件を定めています。この接続の要件を満たしていないOutlook for Windowsでは本サービスのOutlookアドインは正常に動作しない可能性がありますのでご注意ください。



Microsoft Edge WebView2 ランタイムは次のサイトから入手できます。

[「Microsoft Edge WebView2」](#)



Microsoft のライフサイクルポリシーに準拠したサポート期間内のバージョンかどうかを確かめるには次のサイトを参照してください。

[「ライフサイクルに関する FAQ - Windows」](#)

[「ライフサイクルに関するよく寄せられる質問 - Office、Office 365、および Microsoft 365」](#)

5.2.3 macOS 版のバージョンを確かめる

Outlook for Macのバージョンが本サービスのOutlookアドインの動作環境を満たしているかどうかご確認ください。Outlook for MacのバージョンとmacOSのバージョンは、Microsoftのライフサイクルポリシーに準拠したサポート期間内のバージョンをご利用ください。

なお、従来のOutlook for Macでは、本サービスのOutlookアドインの動作は保証していません。本サービスのOutlookアドインを導入する際は、新しいOutlook for Macである必要がありますのでご注意ください。従来のOutlook for Macは、2024年11月時点で、開発が停止しています。そのため、Outlookアドインの動作に不具合があっても修正されません。

Outlook for Mac のバージョン確認方法

1. macOS 版の Outlook アプリを起動します。
2. 「Outlook」メニューを選択します。
3. 「Outlook について」をクリックします。

macOS のバージョン確認方法

1. 「」アイコンをクリックします。
2. 「この Mac について」をクリックします。



詳細は別途 Microsoft のドキュメントをご参照ください。

「[macOS をアップグレードして、Microsoft 365 および Office for Mac の更新プログラムを引き続き受信する](#)」

5.3 アドインのマニフェストファイルを登録したのに表示されない

本サービスのOutlookアドインがOutlookアプリで表示されない場合は、以下の原因が考えられます。

Outlook for Windows または Outlook for Mac の場合

本サービスのOutlookアドインの動作環境に適合したバージョンかどうかご確認ください。動作環境については、本マニュアルの「2.3 動作環境」をご参照ください。

アドインの一元展開機能で Office アドインを展開した場合

管理者によるOutlookアドインの追加では、対象のユーザーに反映されるまでに最大24時間かかることがあります。対象のユーザーに反映されるまでしばらくお待ちください。また、Outlookアドインを展開するときに、Outlookアドインをオフにしていないかどうかお確かめください。

一元展開機能に関する詳細は、「Microsoft 365 管理センターのヘルプ」の[「管理センターでアドインを管理する」「組織でアドインの一元展開が機能するかどうかを判断する」](#)をご参照ください。

5.4 別機能のアドインの追加ができない

本サービスのOutlookアドインはマニフェストファイルを登録する際に使用したい機能を選ぶことができます。本サービスのOutlookアドインをExchange Onlineサービスへ登録するために配布しているマニフェストファイルは、すべて同一のアドインであることを示すGUIDが割り当てられています。そのため、Microsoft 365 管理センターに、すでにマニフェストファイルを登録済みの場合は、別のマニフェストファイルを登録したとしても、同一のアドインとみなされて追加の登録はできません。このとき、別の機能のアドインを利用するには、既存のアドインの削除をしてから、使用したい機能のアドインを追加する手順になります。



ユーザーによる展開の場合は、それぞれのユーザーに任意に選んで登録することができます。ただし、すでに管理者による展開でアドインが割り当てられていた場合は、管理者で登録したアドインが優先され、ユーザーによる登録が無効となりますのでご注意ください。なお、マニフェストファイルのGUIDの書き換えは、サポート対象外となりますのでご注意ください。

5.5 アドインの機能を変更したい

本サービスのOutlookアドインの動作を変更するために、Microsoft 365 管理センターから一元展開したアドインのマニフェストを更新しようとすると「新しいアドインのバージョンが既存のアドインのバージョン以下であるため、アドインを更新できません。」と表示されることがあります。



この場合は、いったん登録済みのアドインを削除してから、もう一度登録しなおしてください。なお、対象として割り当てていたユーザーやグループの情報は削除されてしまうため、もう一度登録しなおす必要があります。



管理者による展開の使用時は以下の点にご注意ください。

- ・マニフェストの更新に 1 週間程度の時間がかかります。
- ・削除してから別の機能のマニフェストファイルで再度登録すると、削除したときの登録内容でアドインが機能することがあります。このとき、最大 72 時間で再登録したアドインに置き換わりま

す。



2024 年 11 月時点で、以下の現象が確認されています。

管理者による展開で既にアドインが登録された状態で、別のアドインを追加登録すると、成功したように見えますが実際には失敗しており、既に登録された内容から変わりません。

対処方法

アドインの削除については、「5.1.2 Outlookアドインを削除する（組織内のユーザー）」をご参照ください。なお、登録手順については、「4.1 管理者によるOutlookアドインの展開」をご参照ください。

5.6 Outlook for Windowsで「アドインを入手」アイコンが表示されない

Outlook for Windowsのオプションの接続エクスペリエンスの設定が有効になっていない場合、[アドインを入手]アイコンは表示されず、組織内のユーザーによるアドインの追加は行えません。組織の管理者による一元展開で展開されたアドインはオプションの接続エクスペリエンスが有効か無効かに関わらず利用できます。オプションの接続エクスペリエンスが有効かどうかを確認する方法は下記をご確認ください。

1. 「Outlook のオプション」画面から、「全般」 - 「プライバシー設定」を開きます。

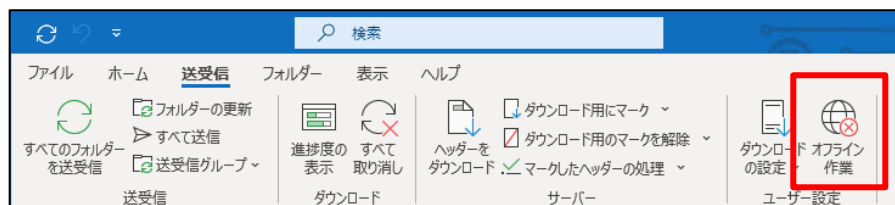


2. 「オプションの接続エクスペリエンスをオンにする」が有効になっていることをご確認ください。



5.7 Outlook for Windows の Exchange キャッシュモードのオフライン作業が有効なときの挙動を知りたい

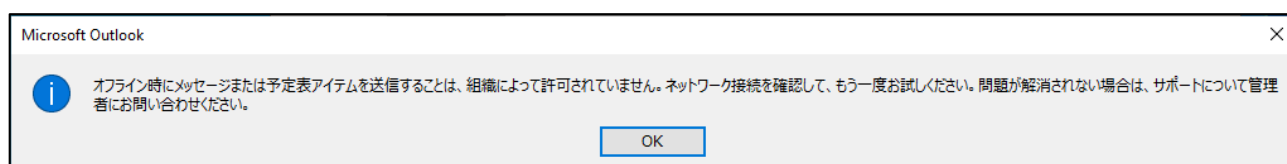
オフライン作業はExchangeキャッシュモードでキャッシュされた内容をExchangeサーバーに接続することなく使用できる機能です。Outlookアドインを使用する場合は、Exchangeサーバーに接続された状態である必要があります。オフライン作業が有効な場合、Outlookアドインは機能しませんのでご注意ください。



5.8 Outlook for Windows でグループポリシー[Web アドインを読み込むことができない場合に送信をブロックする]が有効なときの挙動を知りたい

Outlook for Windowsでは、Exchangeサーバーから切断された状態でも、送信対象のメールを一時的に送信トレイに入れておくことで、Exchangeサーバーへの接続時に自動的に送信することができます。Outlookアドインは、Webテクノロジーで構成されており、Exchangeサーバーに接続された状態で機能するように設計されています。何らかの理由によりExchangeサーバーから切断された状態の場合、Outlookアドインは機能することなく、送信しようとしたメールはそのまま送信トレイに移動します。そのような挙動を回避するため、グループポリシー[Web アドインを読み込むことができない場合に送信をブロックする]を有効にすることで、オフラインとなったときに送信をブロックすることができます。

本グループポリシーが有効な場合は、Exchangeサーバーから切断された状態でメールを送信しようすると、下記の画面が表示されます。未構成の場合のデフォルトは無効です。例えば、Outlookが終了した状態で、Windows OSでファイルを選択して右クリックメニューの「送る」から「メール受信者」を選択してメールを作成して送信しようとした場合に表示されます。



本グループポリシーは、すべてのケースで有効ではないことにご注意ください。例えば、ユーザー自身でオフライン作業を有効にした場合は、本グループポリシーの設定は機能しません。

5.9 Outlook on the web の OnSendAddinsEnabled が True のときの挙動を知りたい

Outlook on the webでは、回線状況などの環境要因によりアドインの読み込みに時間が掛かってしまうことで、アドインが機能していない状態でメールを送信できてしまうタイミングが存在します。この問題を回避する場合はExchange Online PowerShellのSet-OWAMailboxPolicyコマンドレットからOnSendAddinsEnabledをTrueに設定してください。Microsoft 365サービスの契約時に、管理者が別途設定を行わない限り、OnSendAddinsEnabledはFalseとなります。

OnSendAddinsEnabledがTrueの場合、Outlook on the webで送信ボタンをクリックしたときの挙動が変更され、必ず別画面がポップアウトして開く動きとなりますのでご注意ください。ユーザーの利便性などを考慮してOnSendAddinsEnabledフラグを変更するかどうかご検討ください。

5.10 Outlook on the web のモバイル版の挙動を知りたい

スマートフォンやタブレットなどのユーザーエージェントが設定された状態でOutlook on the webにアクセスした場合は自動的にモバイル版表示となります。モバイル版表示の場合、本サービスのOutlookアドインは機能しませんのでご注意ください。

スマートフォンでブラウザのユーザーエージェントをPC版に設定した場合は、本サービスのOutlookアドインの送信確認画面が表示できず、正常に機能しませんのでご注意ください。



2024 年 11 月時点の情報です。
この内容は将来的に変更される可能性があります。

5.11 Outlook Web App Light を無効にしたい

Webブラウザ版のOutlookには、標準バージョンのOutlook on the webの他に、簡易バージョンのOutlook Web App Light（OWA Light、Outlook簡易版）があります。Microsoft 365サービスの契約時に、管理者が別途設定を行わない限り、簡易版は有効な状態となります。簡易版ではOutlookアドインは機能しませんのでご注意ください。

下記のURLを利用してOutlook on the webとOutlook Web App Lightを相互に切り替えることができます。簡易バージョンから標準バージョンに切り替える場合に、layoutにfullを指定していますが、light以外の任意の文字列を指定しても同じ結果になります。

種類	切り替え方向	値
URL	標準版から簡易版	https://outlook.office.com/owa/?layout=light
URL	簡易版から標準版	https://outlook.office.com/owa/?layout=full

Outlook Web App Lightを無効化する場合は、Exchange Online PowerShellのSet-OwaMailboxPolicyコマンドレットを使用して、OWALightEnabledをFalseに設定してください。なお、この設定はOutlook on the webモバイル版表示には影響を与えませんのでご注意ください。



2023 年秋から未サポートのブラウザで Outlook on the web にアクセスした場合、簡易バージョンの Outlook on the web にリダイレクトされます。
簡易バージョンの詳細は「[Outlook のライト バージョンの詳細を確認する](#)」をご参照ください。

5.12 Outlook アドインを WebView2 ベースで動作させる

MicrosoftはデスクトップアプリからWebテクノロジーを扱うためにWebViewコンポーネントを提供しています。Webテクノロジーは進化し続けており、その進化に対応するために2020年11月よりMicrosoft Edge WebView2ランタイムの配布が行われるようになりました。Outlook for Windowsでは2021年01月に公開のバージョン2101ビルド16.0.13530.20424からWebView2ランタイムでOfficeアドインが動作するようになりました。

OutlookアドインをWebView2ベースで動作させることで、Outlookアドインのパフォーマンスの向上が期待できます。Outlook for Windowsが含まれるMicrosoft 365 Appsの各チャネルでは、管理者がインストールを拒否する設定を行わない限り、Microsoft Edge WebView2ランタイムが自動的にWindowsにインストールされ、OutlookアドインはWebView2ベースで動作するようになります。Windows 11からはデフォルトでMicrosoft Edge WebView2ランタイムがインストールされており、削除することはできません。2022年06月にはMicrosoft 365 Appsの導入の有無に関わらずWindows 10 2018以降の環境にMicrosoft Edge WebView2ランタイムが配布されることが決定しました。

WebView2ランタイムはMicrosoftが推奨する構成です。本サービスのOutlookアドインのご利用の際にもWebView2ベースで動作させることを推奨します。なお、ビルド16.0.14326.xxxxx未満のOutlook for WindowsでOutlookアドインをWebView2ベースで動作させるには、下記のレジストリを変更する必要があります。それ以降のバージョンでは、設定変更は不要で自動的に利用できるため、レジストリの変更は不要です。

種類	値
レジストリ	HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥Microsoft¥Office¥16.0¥WEF¥Win32WebView2 dword:00000001



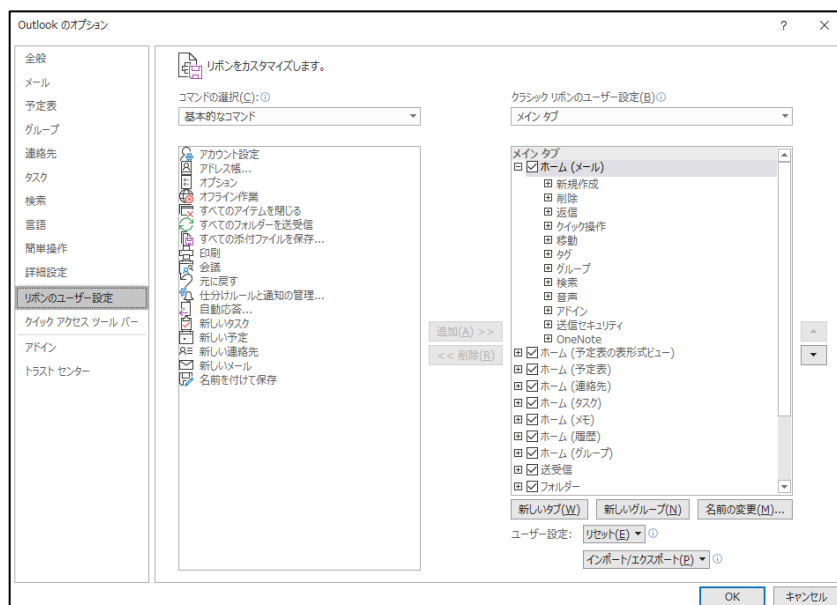
WebView2 ランタイムと Microsoft 365 Apps の関係については下記をご確認ください。
[「Microsoft Edge WebView2 と Microsoft 365 Apps」](#)

5.13 アドインのアイコンの配置がわかりにくい

Outlookアプリの設定を変更することでアイコンの配置を変更できます。

Outlook for Windows の場合

オプションの「リボンのユーザー設定」から変更できます。



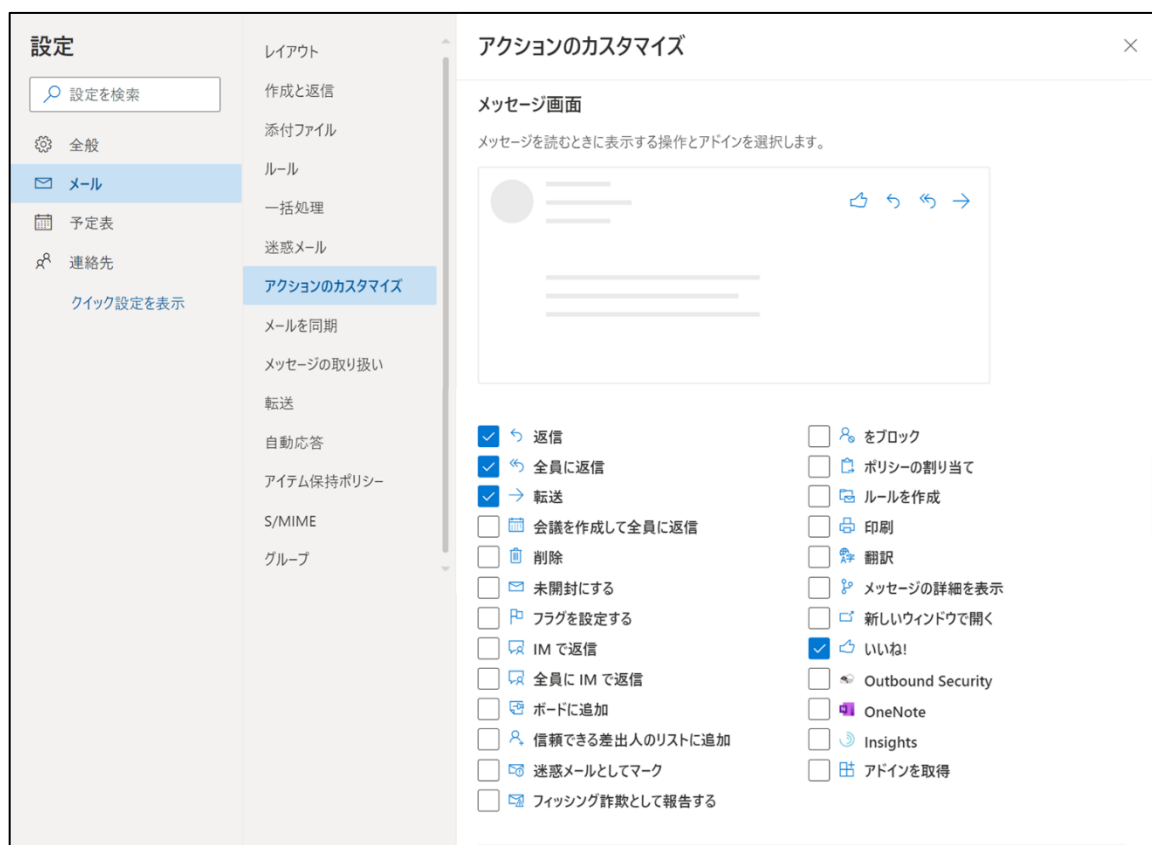
Outlook for Mac の場合

Outlookのツールバーの「ユーザー定義のツール バー...」から変更できます。



Outlook on the web の場合

Outlookのメール設定の「アクションのカスタマイズ」から変更できます。



6. 初期設定完了

サービス利用開始前に実施いただく作業は以上となります。

本資料での設定が完了後、本サービスのご利用が可能になります。

以降、「ユーザー運用ガイド」をご参照の上、利用手順、確認手順を実施ください。



GUARDIANWALL

Outbound Security for Microsoft 365

スタートアップガイド

2025 年 5 月 ver.1.4

